

米子市における認知症の  
早期発見と連携についての調査

報告書

平成 23 年 3 月  
米子市長寿社会課

# 目次

調査目的	1
調査Ⅰ 介護予防事業所の現状 調査の対象と方法	1
調査の内容	1
調査Ⅱ かかりつけ医・認知症専門医療機関の現状 調査の対象と方法	2
調査の内容	2
調査Ⅰ 介護事業所の現状	5
調査対象の概要	5
調査結果の概要	6
【地域の方との交流】	6
【地域の方からの相談の内容】	8
【関わり方による症状の改善と悪化について】	8
【家族会について】	9
【認知症疾患センターについて】	10
【認知症連携室について】	11
【かかりつけ医との連携について】	11
【ケアマネジャーとの連携について】	12
【包括支援センターとの連携について】	13
【認知症対策の課題について】	14
【連携についての困りごと・行政に対する意見について】	16
【連携とは】	17
調査項目用紙	18
調査Ⅱ かかりつけ医・専門医療機関の現状	22
調査対象の概要	22
調査結果の概要	23
【貴院の診察状況について】	23
【早期対応について】	28
【地域包括支援センターについて】	29
【認知症疾患医療センターについて】	31
【認知症疾患医療センターをより充実させるには】	32
【かかりつけ医認知症対応力向上研修について】	33
【各関係機関との連携について】	35
調査項目用紙	40

# 米子市における認知症の早期発見と連携についての調査

## 調査の目的

米子市では介護認定を持つ 6,600 人の高齢者の 62%の 4,100 人に認知症状が見られ、今後ますます高齢者の増加とともに認知症を有する高齢者もさらに増大していくと思われる。担当課である窓口でも認知症高齢者の家族より相談があり、困っている家族を目のあたりにする。行政としては認知症予防施策の充実整備を図ることが急務と考える。

そこで、通所型介護施設、訪問型介護施設、かかりつけ医、認知症専門医療機関等へ早期発見の状況、受診の現状、連携の現状等実態調査を行い、調査・分析することで、今後の認知症予防施策の充実整備、認知症医療連携システムの構築を図るために役立てることを目的とする。

## 調査 I

### 調査の対象と方法

#### ① 調査対象

通所型介護施設 デイサービス (54 件)      デイケア (15 件)

訪問型介護施設 訪問介護 (42 件)

#### ② 調査方法 質問紙法 郵送による発送・回収

#### ③ 調査期間 平成 22 年 8 月 13 日～平成 22 年 8 月 31 日

#### ④ 回収率 49.6%

## 調査の内容

### 事業所と地域の方との交流の状況を把握するための項目

事業所と地域の方と交流の有無

#### ①自治会へ入会

#### ②自治会での行事（夏祭り、文化祭、運動会等）への参加

#### ③近くのスーパー、商店への買物

#### ④事業所の見学会の開催

#### ⑤事業所の行事へ参加してもらう

#### ⑥事業所のたよりを定期的に発行し回覧、通知している

#### ⑦中学生の職場体験を受け入れている

#### ⑧小中学生との交流会

#### ⑨地域の学習会や懇親会の開催

#### ⑩事業所の近くで徘徊高齢者がいれば一緒に探す

#### ⑪認知症サポーター養成講座の開催

### 事業所へ地域の方からの相談状況を把握するための項目

- ①地域住民からの認知症に関する相談の有無（より身近な所での相談）
- ②認知症の相談内容
- ③事業所での認知症家族の交流会（家族会）の有無
- ④事業所の影響力の把握（家族と介護者との関わりで変化したこと）

### 認知症の専門的な医療を提供する医療機関、相談窓口の状況を把握するための項目

- ①「認知症疾患医療センター」の周知度
- ②「認知症疾患医療センター」への相談の有無
- ③「認知症連携室」の周知度

### 認知症のケースに対しての連携の状況を把握するための項目

- ①かかりつけ医
- ②ケアマネジャー
- ③地域包括支援センター
- ④上記以外の関係機関

### 事業所での認知症対策の課題等を把握するための項目

### 連携についての困りごと、行政への意見、要望等を把握するための項目

### 連携に対する意識等を把握するための項目

## 調査Ⅱ

### 調査の対象と方法

#### ①調査対象

米子市内の西部医師会員

かかりつけ医（診療所） 143 件

専門医療機関（病院） 11 件

#### ②調査方法 質問紙法 郵送による発送・回収

#### ③調査期間 平成 23 年 1 月 7 日～平成 23 年 1 月 24 日

#### ④回収率 55.8%

### 認知症の診察状況を把握するための項目

- ①認知症と思われる人の診察
- ②認知症の人の年間診察数
- ③認知症の症状のある人の診察に至るまでの経路
- ④認知症を疑った場合の対応
- ⑤認知症の方の家での様子の確認

### 早期対応の考え方を把握するための項目

認知症の早期発見のために必要なことは何か

### 地域包括支援センターとの連携の状況を把握するための項目

- ①認知症の相談窓口としての存在
- ②高齢者実態調査について
- ③相談連絡の有無
- ④連絡の内容

### 認知症疾患医療センターの状況を把握するための項目

- ①「認知症疾患医療センター」の周知度
- ②「認知症疾患医療センター」への紹介の有無
- ③「認知症疾患医療センター」をより充実させるために必要なこと

### かかりつけ医認知症対応力向上研修の状況を把握するための項目

- ①「かかりつけ医認知症対応力向上研修」の周知度
- ②「かかりつけ医認知症対応力向上研修」の参加状況
- ③「かかりつけ医認知症対応力向上研修」の参加希望
- ④「かかりつけ医認知症対応力向上研修」に参加したくない理由
- ⑤「かかりつけ医認知症対応力向上研修」の内容について

### 各関係機関との連携の状況を把握するための項目

- ①認知症専門医との連携の状況
- ②介護支援専門員（ケアマネ）との連携の状況
- ③地域包括支援センターとの連携の状況

### 認知症の症状のある方の診察で困っている状況を把握するための項目

認知症の人と家族が安心して暮せる地域になるために必要なことを把握するための項目

医師自身が認知症をどうとらえるか把握するための項目

調査の実施者

実施主体

米子市

# 調査 I

## 調査対象の概要

### 1. 調査対象

米子市内の通所型介護施設事業所	デイサービス	54件
同上	デイケア	15件
米子市内の訪問型介護施設事業所	訪問介護	42件
	合計	111件

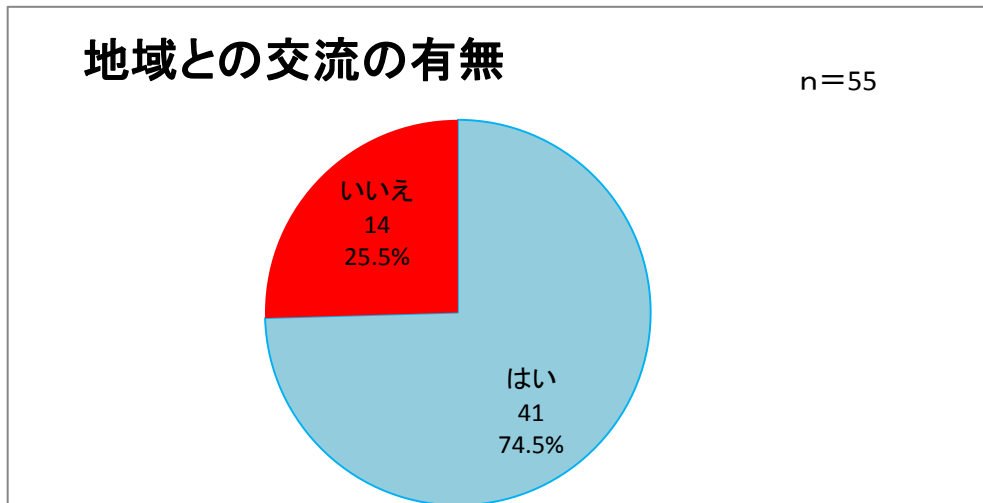
### 2. 回収率

49.6%

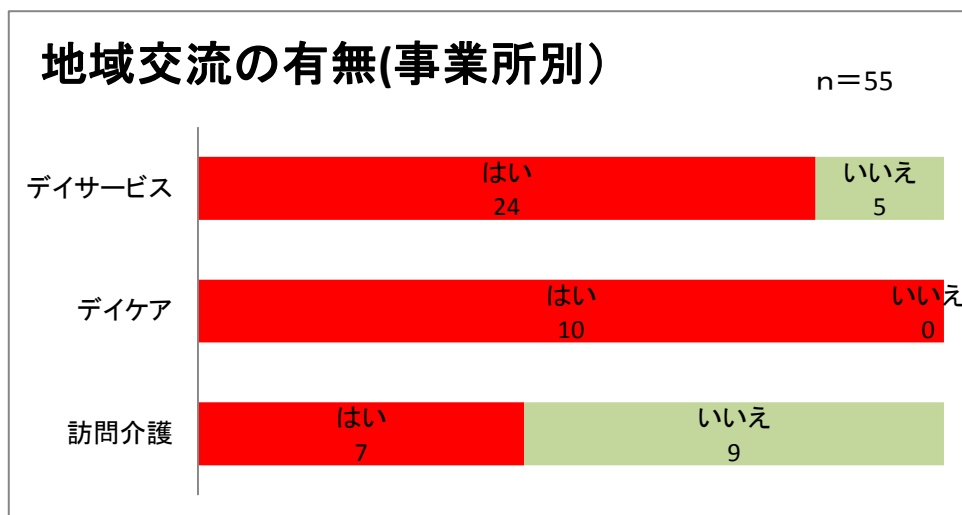
### 3. 回収の内訳

事業所	対象数	回収数	回収率
デイサービス	54	29	53.7
デイケア	15	10	66.7
訪問介護	42	16	38.1
	111	55	49.6

## 【地域の方との交流について】



事業所で周辺(中学校区)の地域の方と交流することがあるかたずねた。介護施設の41件(74.5%)が地域の方と何らかの交流をもっていると回答している。

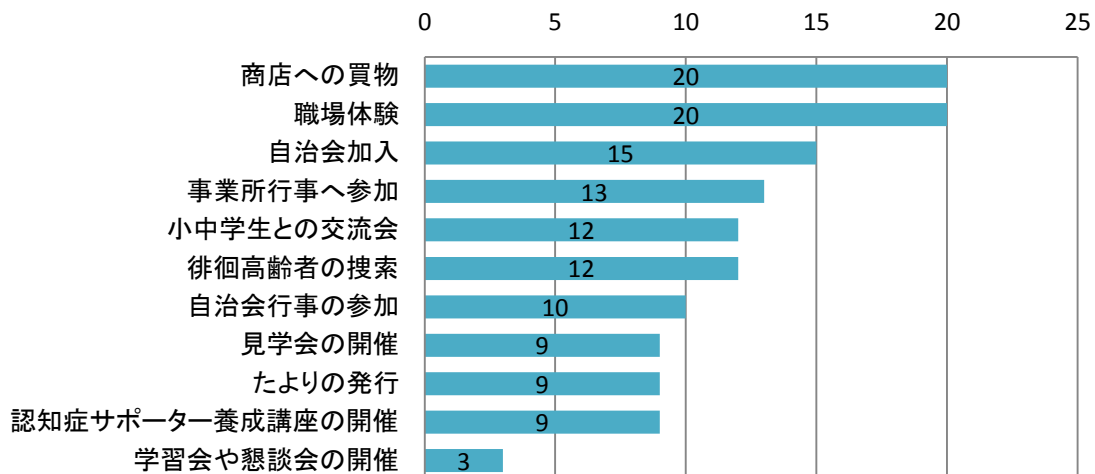


地域との交流を事業所別にみたところ、デイケアでは10件中10件(100%)が地域と交流をもっている。次いでデイサービスで29件中24件(82.8%)、訪問介護で16件中7件(43.8%)の順で何らかの形で地域と交流していると回答している。



## 地域交流の内容

n=41

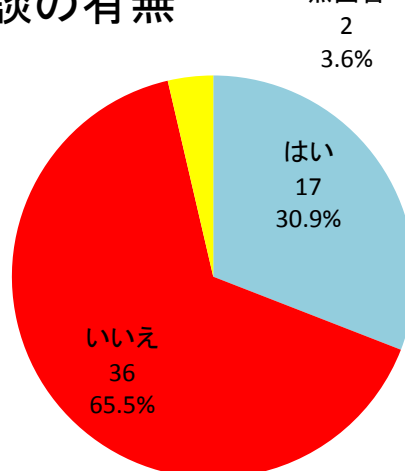


地域の方と交流することがあると答えた41件の事業所にどのような交流が複数回答でたずねた。そのうち最も多かった交流の内容は「近くのスーパー、商店への買物」20件(48.8%)と「中学生の職場体験を受け入れている」20件(48.8%)で、次に「自治会へ入会」15件(36.6%)「事業所の行事に参加してもらう」13件(31.7%)の順であった。

## 地域からの相談の有無

無回答

n=55



利用者以外の地域の方から認知症について相談があったかどうかたずねた。介護施設(デイサービス、デイケア、訪問介護)へ認知症についての相談があったのは17件(30.9%)であった。

## 【地域の方からの相談の内容】

### 対応方法

- 同居家族の方から対応の仕方と入所施設について。
- 通院に1人で行けない。自分も仕事があるし困っていると相談(家族より)始終見守り必要な方。
- 電話での相談→その後来訪されて相談を受けました。ご家族に対しての接し方、今後どのように接したらよいか、サービス利用も含めた内容。
- 認知症の対処法、家族の気持ちを聴いて欲しい、よい受け入れ先(病院も含む)を教えて欲しい。

### 相談窓口

- 民生委員さんから～さんの行動で近所の方が困惑している。生活の様子など当事業所で訪問しているか方について
- デイサービスの内容の説明
- 入所施設等に入りたい。
- 自宅で3年前よりカーテンを閉めて寝ている買い物依存症の方。ご家族がこのままではいけないと思い、デイサービスにでも通ってほしいがどうしてよいかわからないという相談。
- 症状の訴え、相談窓口の紹介など。
- 家族の方から、同じ物ばかり買って来る。食べたのに食べていないなどあって一人にしておけない。介護保険を使っていないけどどうしたらデイケアみたいなどころに行けるのか等。
- 受け入れてくれる施設はないか？
- 診断、治療希望。

### サービスの内容

- 他事業所サービス利用中だが、適正かどうかの相談。
  - 物忘れが時々あり、もし介護でお世話になるならどのような所があるか等。
  - 認知症の妻を介護しているが、各サービスの特徴について教えていただきたい。
- 事業所の見学あり。
- 介護保険サービスの問合せ等。

## 【関わり方による症状の改善と悪化について】

### <改善>

#### 定期的な通所と介護負担の軽減

- デイサービスに毎日来られるようになり家族様に対する攻撃的な言動が少なくなりました。
- 閉じこもり状態でご家族の介護負担大であったところ、通所へ出ることができるようになった。
- 環境の変化(短期入所の利用されるようになる)により、暫くの間(1ヶ月くらい)、今まで出来ていたことができなくなった。不穏な行動が続いた。家族様に、対応方法のアドバイスをし、在宅で落ち着いて過ごされるようになった。
- ご家族の方のストレスを感じ、訪問し、悩みを傾聴して、介護方法のアドバイスをし、主治医より通所を利用してきた効果であると評価をいただきました。
- 独居でデイサービス拒否があったが、お迎え時間を30～40分にし、個別に対応しなじみの関係作りを行い毎回利用されるようになった。
- 定期的なデイ利用により生活にリズムができ、スタッフや他利用者との会話や自身からすすんでお手伝いをされるようになった。

#### 生活史の把握

- 認知症になる前の、認知症当事者と介護家族の関係の良し悪しが大きく影響するので、その辺りを把握した後に具体的な関わりを検討する。
- 今までの生活史を振り返る。お茶の先生をされており、週1回お茶を点てていただく。表情もよくなり、その写真を家族に渡すと感動されていた。

#### 生活支援

- ご飯が食べれなかった方が食べれるようになり生活基盤が整った。
- 同じ時間帯に決まった訪問介護員が支援する事で、共に家事を行う事ができるようになった。
- 施設での生活が困難な方が在宅に戻られ、初めは訪問援助も受け入れられない方、タクシーで外出して戻れない等あったが、訪問(H,H)のサービスに慣れられて、生活リズムが出来て在宅生活を継続されている。

### 家族会の効果

- 家族会では、同じような悩みをかかえる家族で座談会を行い、悩みの軽減と助言をしている。
- 家族の方へ悩みが出され、家族同志の支え合いができる。

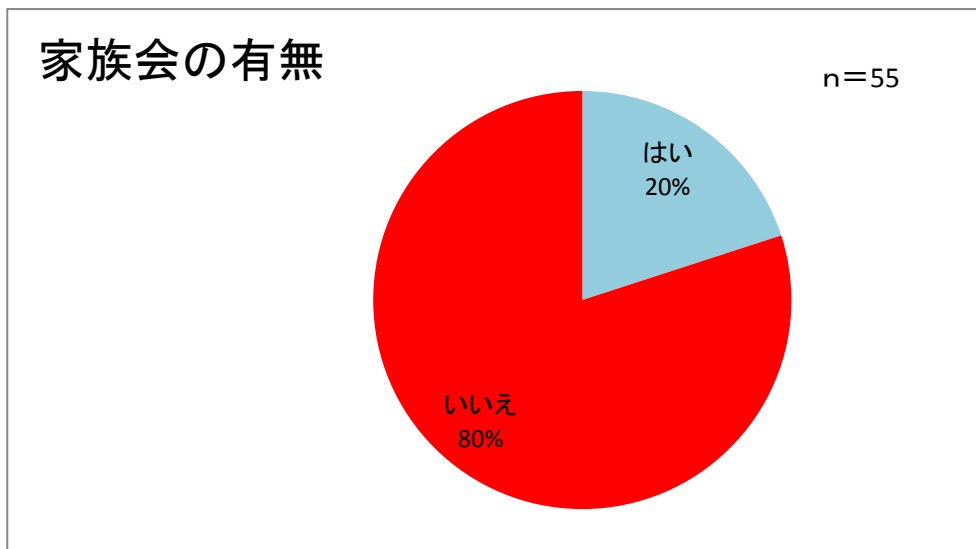
### 家族の研修

- 認知症に関する自主研修に参加していただき、関わり方を共に考えること、重視していただくことで軽減した。

### <悪化>

- 家族の本人に対する対応の方法にて悪化。
- 職員中心の介護となり、認知症の方が一時的に不穏状態になられたケースがありました。
- 入院時認知症があっても、退院後の家庭環境、家族の接し方等で著明に改善される方が多い。日中1人又はあまり接しない家庭では進行する。
- 数回の訪問で会話が活発となり、高温時の外出を中止するなど指導していたが、外出され熱中症で入院となった。
- 転倒を防ぐ事ができず頭を打ち、症状が悪化して記憶する事ができず1人暮らしが困難になった。
- 利用者の表情が穏やかになった。閉鎖的だった家族も、人の意見に耳を傾けるようになった。ヘルパーが手をかけすぎて、炊飯器の使い方が解らなくなった。
- 家族が遠方に住み、独居。事情があり家族がなかなか帰省できず、又ヘルパーの通院介助が行えない現状の下、正しい受診、検査が遅れ、症状がかなり進んでしまったという事例がありました。

### 【家族会について】

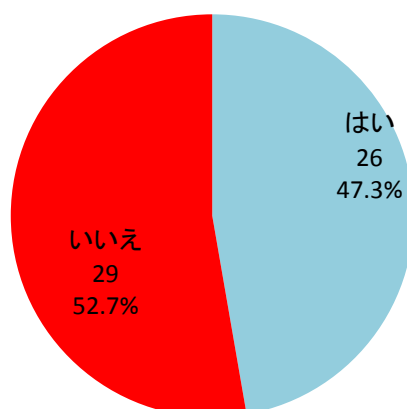


認知症家族の交流会(家族会)がありますかとたずねてみた。介護施設にて認知症の家族の交流会があるのは11件(20%)である。残りの44件(80%)は交流会はない。

## 【認知症疾患医療センターについて】

### 認知症疾患医療センターの周知度

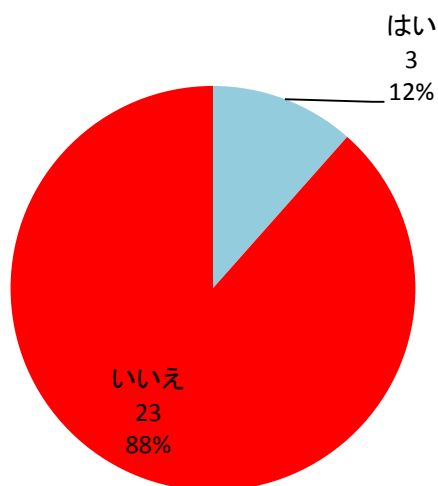
n=55



「認知症疾患医療センター」を知っているかたずねたところ、「はい」と回答した介護施設の割合は47.3%であり、「いいえ」と回答した介護施設の割合が52.7%であった。半数以上の介護施設が「認知症疾患医療センター」を知らないと回答しており、PR不足を感じられた。

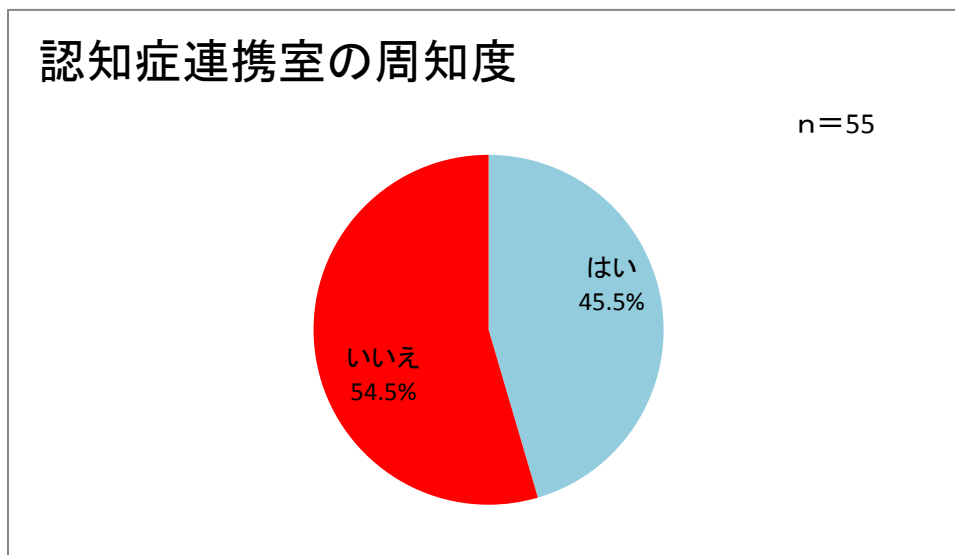
### 認知症疾患センターへの相談の有無

n=26



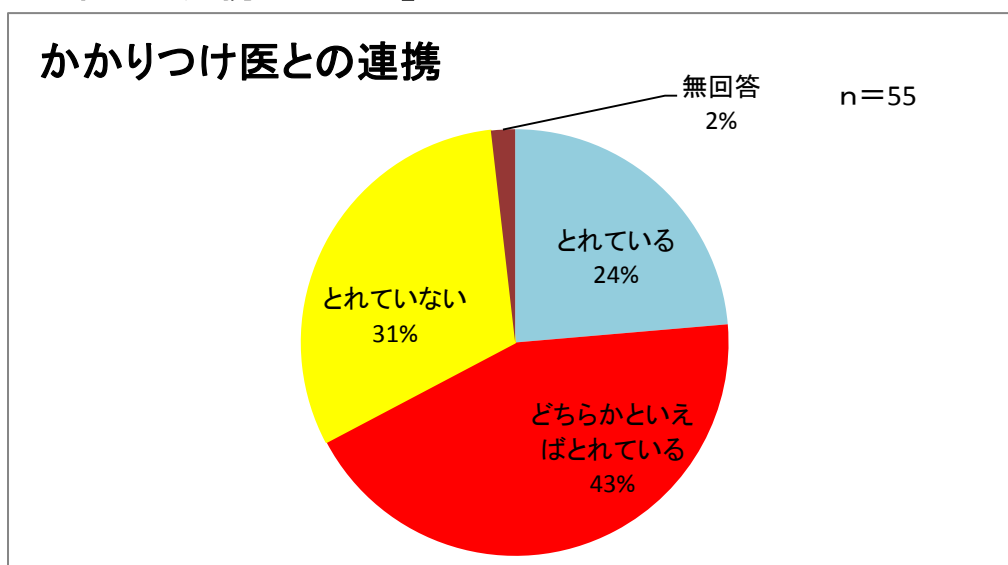
「認知症疾患医療センター」を知っていると回答した26件に「認知症疾患医療センター」に相談したことがあるかたずねたところ、「はい」と回答した事業所は3件(12%)であった。「いいえ」と回答した事業所の割合は88%であり、8割以上が相談したことがなかった。「認知症疾患医療センター」を知っていても相談ができていない現状である。

## 【認知症連携室について】



「認知症連携室」を知っているかたずねたところ、「はい」と回答した割合は45.5%、「いいえ」と回答した割合は54.5%であった。

## 【かかりつけ医との連携について】



「かかりつけ医」と連携が図れているかたずねたところ、「とれている」と回答したのが24%、「どちらかといえばとれている」が43%、「とれていない」が31%であった。「かかりつけ医」とほぼ連携がはかられていると思う事業所の割合は「とれている」と「どちらかといえばとれている」を合わせると67%であった。

## 【かかりつけ医との連携が図れている具体例】

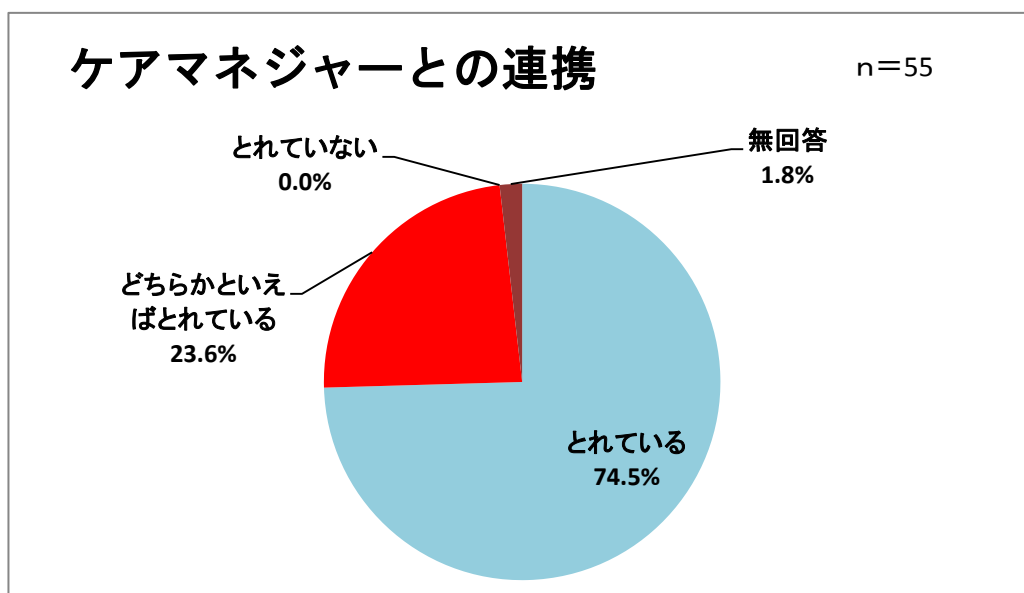
### クリニックの併設

- クリニックに併設しているので、すぐ医師に相談ができ、医療と介護の協力がしやすい。
- 診療所と併設しているので、常に連携が図れている。
- 同法人に病院がある為、Drの指示が受けやすい。

### 家族・ケアマネに連絡

- 異常行動があれば、家族に連絡してかかりつけの医師に受診を勧めています。
- 利用者様の身体的言動変化等があれば、家族様、ケアマネジャーさんに連絡しています。
- 体調不良時連絡、指示を得る。
- デイケア利用中の体調不良時の相談。

## 【ケアマネジャーとの連携について】



「ケアマネジャー」と連携が図れているかたずねたところ、「とれている」と回答した事業所は74.5%、「どちらかといえばとれている」と回答した事業所は23.6%であった。「とれていない」と回答した事業所は1件もなく、「とれている」と「どちらかといえばとれている」を合わせると98%であり、「ケアマネジャー」との連携はよく図られていると思われる。

## 【ケアマネジャーとの連携が図れている具体例】

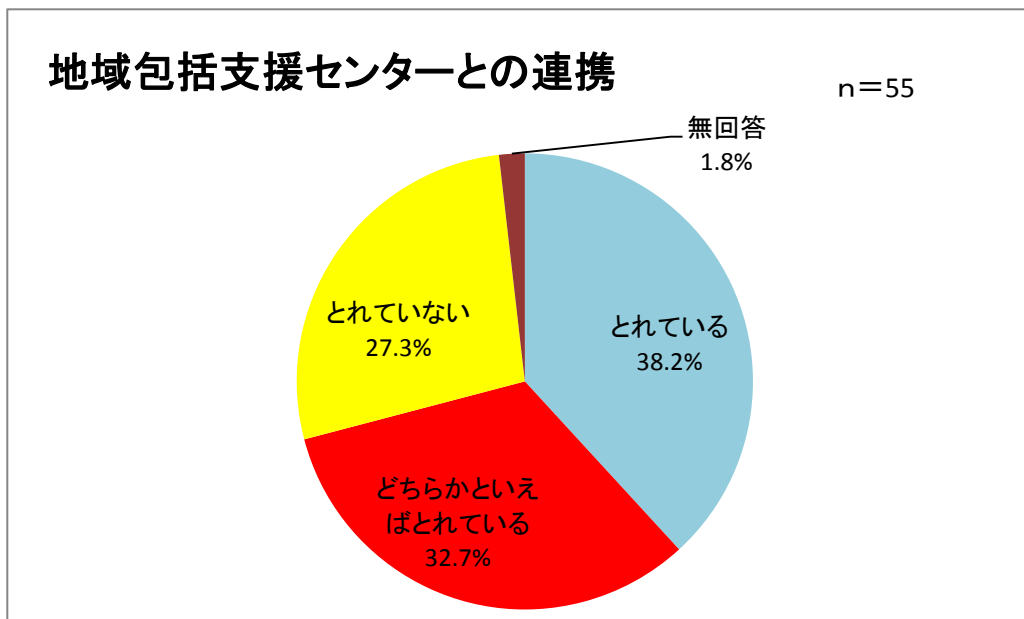
### モニタリング

- モニタリングを毎月提出し、異常のある方はすぐにケアマネジャーへ連絡している。
- 新規利用時の状況報告、サービス内容についての連絡、電話、施設内ではメールを含む、月1回サービス実施報告書提出、3ヶ月1回、モニタリング、リハビリマネジメント報告書提出。
- 利用者の情報交換、症状変化の報告、月1回のモニタリング提出。
- 3ヶ月に一度のモニタリングと特記事項があれば、実績送付時に記入している。
- 毎月のモニタリング、また何かあればすぐに電話などでの報告、相談をしている。
- 定期訪問、各利用者ごとのモニタリングの提出。
- 法人内に居宅があるので、連携を図っている。また、他事業所とは電話と月1回モニタリングを持参し面会もしている。

## 随時連携

- 血圧高値の利用者、ケアマネジャーに相談、病院受診につなげる。
- 特変あれば即ケアマネジャーに電話連絡し、支持をあおぐこともある。
- お互いに細かい情報も交換するようにしています。
- 特変があれば連絡、定期的に連絡表を提示する。
- 服薬の管理ができていないようであれば、連絡しサービスに訪問看護が入る。自宅(独居で認知症)が不衛生でカビの発生などあった時、連絡し片付けたり洗濯援助を行う等。
- 随時情報交換を行っている。
- 担当者会議は必ず出席し、急変時や何かの変化があったときには必ず連絡を入れている。
- 訪問や電話連絡にて、利用者様の状況の変化、家族様の相談等、適宜行っている。
- 異常行動があれば当日に連絡をとっています。
- ご利用者やご家族様の状況をその都度連絡しあっている。
- 利用前の情報交換、プラン更新時の話し合い等、特変時に電話連絡。

## 【地域包括支援センターとの連携について】



「地域包括支援センター」と連携が図れているかたずねたところ、「とれている」と回答した事業所は38.2%、「どちらかといえばとれている」と回答した事業所は32.7%であった。「とれていない」と回答した事業所は27.3%であった。

「地域包括支援センター」と連携が図られていると回答した事業所は「とれている」と「どちらかといえばとれている」を合わせると71%であった。

## 【その他の関係機関との連携について】

- 民生委員さんが相談や協力して下さっています。
- 利用者が利用している他のサービス事業所。
- 利用者様にかかわっている事業所間で、体調変化等連絡を取りながら(電話連絡ノート)支援している。
- デイサービス、訪問看護。
- 併設事業所のデイサービス、ケアハウス。
- 複合施設内にある在宅サービス(デイケア・訪看・ヘルパー)。
- 同施設内事業所(訪看、ヘルパー、通所サービス)。
- 医療、介護連携部署、訪問介護。
- 認知症介護実践指導者のちネットで相談、認知症をかかえる家族の会の相談員さんなどに相談しています。
- 保健所の保健師の方に相談させていただくこともあります。
- ボランティアセンター、近くの小学校(交流会の開催)。
- 福祉用具。

## 【認知症対策の課題について】

### 家族のタイプ

● 認知症を発症した人の(難易度)症状や年齢に相当な開きがある。また認知症発症者の家族にもいろいろなタイプが存在する。在宅生活を続ける場合は、家族の協力状況や家族が在宅支援にかけるエネルギーなどの測定を正確にする事が重要。家族の在宅志向が弱い場合はグループホーム等入居や宿泊サービスを探ることになるので、家族を含めた支援対策の検討が重要なのだが「家族支援」という観点は弱い。

### 若年性認知症

● 若年性認知症の方が対象者でいらっしゃるが、進行が早く支援が後追いになっている。

### スタッフの教育

- 経験の少ない職員が多い為、認知症の理解、支援方法などの指導、教育が課題。
- 法人としての認知症ケアに関する研修に加え、事業所内でも認知症に関する研修を行っています。又、外部研修としては、認知症リーダー研修などにも参加しています。
- スタッフの研鑽に努め、技術向上を図りたい。
- 増加する認知症者に対し、各地で行われている認知症の研修、講演に参加し、施設内での勉強会を定期的に行っている。
- (センター方式など)しっかりとしたアセスメントができていない。常にゆったりとしたその人のペースが作れないことがある。

### 介護保険サービスの限界

- 独居や日中独居の方の生活がどの程度維持できていたら良いのかを考えたとき、介護サービスの中でできることに限界を感じることもある。
- ご利用者の思いを重点においたサービス提供を課題に取り組んでいる。近隣の理解の難しさ。介護サービス内で補えない部分の対応。

### 介護保険制度

● 認知症当事者の症状や年齢に大きな開きがあるように、介護をする家族の支援力や思いも様々でバラエティに富んでいる。在宅介護の場合だと、認知症当事者と、その家族、両方の状態を把握して、両者の釣合が取れるような支援策を考えるのがセオリーだが、介護保険制度の仕組みでは、認知症当事者と専門機関という観点になるので在宅には向かないように思う。

### 対応方法

- 訪問介護では被害妄想には特に注意を要します。変だなと思える発言などあれば、事業所内でカンファレンスを開き、全員が統一した行動、考えのもとに全てをケアマネジャーに話し最善と思える方法を取る。
- 傾聴しながらの支援で認知症のため動作がゆっくりなため、利用者様のペースに合わせて、提供時間が不足するときがある。
- 服薬が多い利用者様の服薬確認は、食事摂取と同じで飲んだか飲まないかがあいまいで、2ヶ月分も投与されている場合の管理は援助者がいないとできない。



- 認知症の方に対する対応の統一、職員の意識統一。
- ご家族はヘルパー訪問を希望されるが、ご本人の受け入れが悪い。訪問先で、「頼んでいない。帰れ。」と言われる事がある。
- 担当者間で、利用者への対応について意見交換、相談の機会を多く持つていく。
- 家族(遠方)とのかかわり合いを持ってほしいが、長い1人暮らしになられるとお互いに意志の疎通がはかれない(対応できない)。
- 人員不足により対応が不十分。
- 行動症状のある方に関しては見守りを重視しておりますが、時折施設外へ出られることがあり、業務の忙しい中では常にマンツーマンの対応ができないところが課題となっております。
- アクティビティーとして計算問題等してもらっていますが、出来なかった場合、利用者が落ち込まれその際の配慮をどうするか。

### **かかりつけ医**

- 特に認知症の認識が薄いドクター(「年をとるとどうしてもねえ」とか「自分は精神科なので神経疾患の方は専門医に行ってください」とかという対応をされるととまどう)の利用者様の場合、専門医の受診をすすめてもお世話になった先生を変えることはできないとか心情的な想いもあり、又、受診をしたくない患者様の場合はいかかりつけ医の助言が必要と感じます。

### **啓発**

- 認知症の方が地域に出やすいよう全ての住民が認知症をよく理解し支援できるように普及啓発を行うこと。

### **デイの内容**

- 効果がすぐにあらわれるものではないので、今その方に行っている事がその方にとってよいものかどうか不安になることがある。また、レクなどがマンネリ化しないように心がけている。
- 認知症の進行を見逃さないために、定期的にMMSEを実施しているが、認知症が進行し本人様の意思に沿わない(脳活性化)メニューでは、効果的ではない。どのように意に沿ったメニューをすすめていくのか?が課題。

### **利用者間**

- 認知症の度合いが違う人でも同じ部屋にいるため、口論がはじまることもある。
- 30名という定員の中で、認知症の人、そうでない人、さまざまな人が同じホールで過ごすことで、認知症の人の言動や行動が原因で衝突をしかねない。職員配置にも限度があるので、その部分が不安と課題である。

### **施設の条件**

- 立地条件、設備環境。(徘徊時外に出やすい、車の通りも多く外部からの客も入りやすくしている為、自動ドアの開閉が多い。)
- 適所事業だけなので泊まれる機能が求められる。

### **地域への発信**

- 当事業所は今年1月に移転してきましたが、まだまだ地域に展開できていないのが現状です。現在のところは、現利用者様のご家族様との関係作りの段階です。家族様へ認知症に対する症状の分かりやすい説明を心がけています。

### **その他**

- 副介護者の不在家庭の場合、特にご家族支援も重要となってくるが、そう簡単ではない。重度化するにつれて医療依存度が高くなってきており、対応しかねる場合もでてくるだろう。
- 独居認知症の方への支援。
- 認知症の軽減化。
- 処遇困難事例が発生したら、すぐにスタッフで情報を共有し計画をたて、職員が足並みをそろえてケアにあたっています。ケアプランと一緒に、期間を切って見直し、職員が嫌にならないように…ご本人の目標が達成できるよう支援しています。
- 私は、認知症の早期発見・治療は医療が行うことで、介護保険のリソースを消費すべきではないと考えています。
- かかりつけ医との連携はケアマネ任せになっている。
- まず家族に理解していただくように努力はしているが、当施設は認知症加算は実施しておらず、認知症を合併している方は多いが主ではなく、身体障害が主の方が多い。

## 【連携についての困りごと・行政に対する意見について】

### 地域ネットワーク

●徘徊時など早期発見ができるように警察・行政・医療・福祉機関・地域公民館だけでなくタクシーやコンビニ等幅広い範囲でネットワークを作る必要があると思います。

### 相談窓口の明確化

●困りごとをどこに相談してよいかわからない・・・ところから早期発見や治療が難しくなっていると思います。特に高齢者世帯や独居(生活保護の方)など。福祉課と長寿社会課の連携はどのようにされているのか少し疑問に思います。

### 介護認定

●介護度決める基準にやや不信感がある。調査員一人ひとりの見方、考え方がまちまちで、介護度の決定があいまいに感ずるところがある。情報収集をしてから決めてほしい。

### 介護サービス

●利用されるサービス機関が多くなると、共通認識の度合いが低くなってしまいがち。一般通所での認知症対応と、認知症対応通所との区別がつきにくくなっているように見受けられる。

### 地域包括支援センター

●包括の認知症に対する関わりが見えてきません。

### かかりつけ医

●主治医との連携について、医師によりますが、デイサービスの内容もあまりわかっておられずすすめられたり、処方内容等たずねると、デイサービスにこの情報が必要なのか・・・という態度であったり。

●大病院との連携が図りにくい。家族様の意見より、認定調査に家族の意見があまり反映されていないと感じている(以前より、状況は悪くなっているのに、介護度が低く出た。利用回数、利用時間が減り、困っている)。

●医療機関(特に医師)との連携が難しい。在宅でのサービスの理解度が薄い。行政の方は紙面上の対応。生活保護の方に担当の職員の方との連携が上手くとれない。

●特に開業医(かかりつけ医)の認知症早期発見への意識の持ち方に差があり、現場での状況を伝えても対応にとまどうことがあります。

### 介護保険制度

●連携の最重要課題は「家族」と認知症当事者の連携であり、「家族」の協力度が低くなればなるほど、認知症当事者を施設入所させることに支援策が傾いていく。問12でも書いたが、介護保険は認知症当事者の状態を、家族の介護力とは別個に考える仕組みなので、実際には最も影響のある家族の位置付けが弱いと思う。

### 介護保険サービスの限界

●徘徊等見られる方の安全確保、介護保険内では限界がある時、行政や包括からの支援

●独居や日中独居の方の生活がどの程度維持できていたら良いのかを考えたとき、介護サービスの中でできることに限界を感じることもある。

### 困難ケースの対応

●認知症に限らずだが、困難ケース等、包括に相談したところでテキストに載っているような一般的な返答しか返ってこず、実践力が全くない。独自に他事業所と相談している状況

●担当ケアマネ在時に支援困難になった時の指示をもらいたい時に困った家政婦さんが介入されている場合、実費と介護保険とサービスの差があり、利用者様が混乱され理解されるまでに認知がどんどん進行し、実費サービスがふくらんでしまい自立支援困難になっていった。

●利用者様に説明しても理解力がなく、思い込みで腹を立てたりされる。この暑さでも暖房をつけたりされる(冷房は寒い)か、家族は遠方におられ、あまり危機感がない。(ケアマネは細かい事でも随時連絡している)

## **生活保護の担当**

●生活保護の方の福祉課の担当ワーカーの変更が短時間の間にあり、訪問利用者の方の担当が覚えられない。

## **その他**

●連携等の課題があると行政(県、市)の方はすぐアンケートという手法を採用されるのだが、アンケートという手法では課題は解決しないように思います。アンケートよりはもっと現場に入って、家庭訪問を行政自らがいきその上でアンケートを実施されたらもっと有効なアンケートが可能だと思

## **【連携とは】**

### **在宅支援専門員の人材養成**

●当面の目標が施設入所の場合と在宅介護継続の場合では連携のあり方が違うと認識している。在宅介護継続の場合は、家庭訪問の回数を増やして、家族の気持ちが折れないようにする必要性がある。これはケアマネジャーの家庭訪問の回数を単に増やすことではなく家族の心のケアと、在宅支援策を一緒に行える「在宅支援専門員」のような人材の養成が必要と考えている。キーパーソン「在宅支援専門員」抜きでの連携は形式的連携であり、在宅を続ける力にはなり難い。

### **こまめに連絡・情報共有**

- 身体状況・行動・言動において、関わる全ての方が把握できるようこまめに連絡を取り合う
- 同じ利用者に対して事業所内の訪問は同じサービス提供を行うため、また、利用者の状況を把握するために連携が必要です。担当ケアマネジャー、他の事業者もサービス提供していれば、情報を共有しなければならないので、ケアマネジャーには連絡を入れています。
- 事業所により、強い面、弱い面があると思うが、お互いが補えような連携をとりたいと考える。
- 利用者の生活を支えるため、心身の変化・生活する上での困ることなど共通認識を行い支援していくことが重要と思うので、そのためにも関係各所の情報交換を行い、連携を取ることが必要と考えています。
- 緊急時の連携が一番大切と感じております。
- 必要。
- 利用者を取りまく関係機関間の連絡、相談。
- 事業所同士だけでなく、その中心にご利用者がおられる。ご利用者中心に連携をとることを意識(ご利用者が困られないようにということ)そういう風に意識すれば言いにくい事も伝えられるし、言ってもらえた時にも素直に受け止められる。この度の調査は有難く思います。医療と福祉、行政が同じ方向を向いて動いていければ、効果があがるものと思います。
- 利用者個々の支援には他職協働が重要な連携機能をはたすと考える。連携機能を円滑にするためにはケアマネジャーの役割が要となる。サービス事業所が個々の役割を発揮し、他の事業所と情報共有し、目標達成に対する意識統一、ケアの継続性を他職種協業を図るために連携は重要。その為に電話連絡、情報提供、必要書類の内容の向上に務めている。連携強化には、利用者個々のニーズ目標設定が重要と思う。
- 報告・連絡・相談がスムーズに行われること。
- 迅速に新しい情報が共有できるような体制が取れると良いと思います。
- データベース上での情報の共有が望ましいが、当面無理そうなので、特変時に速やかに連絡が取れる体制があれば良い。
- ケアマネへ、デイケアだけの状態を考えて発言するのではなく、在宅生活全体を考えて提案できること。又サービス提供事業所同士での情報伝達(次のサービス事業所へ)

## **その他**

- 事業所における連携とは家族・医師・ケアマネくらいかと思われ。予防面では医師・ケアマネがモニターされるのがまとめやすいのではと思われ。
- よりよいケアするための手段。









デイサービス 単独型・併設型・共用型	事業所名	担当者名
デイケア		電話番号

認知症の早期発見、早期治療、早期ケアのために地域の方が気軽に相談できる事業所があればよいと思いますが、ご意見をお聞かせいただければ大変有難いです。次のことについておたずねします。

問1 貴事業所で事業所周辺(中学校区)の地域の方と交流することがありますか。

- はい  いいえ

問2. 問1で「はい」とお答えの事業所におたずねします。それはどのような交流でしょうか。

該当するもの全てお選びください。

- 自治会へ入会  
 自治会での行事(夏祭り、文化祭、運動会等)への参加  
 近くのスーパー、商店への買物  
 貴事業所の見学会の開催  
 貴事業所の行事へ参加してもらう  
 貴事業所のたよりを定期的に発行し回覧、通知している  
 中学生の職場体験を受け入れている  
 小中学生との交流会の開催  
 地域の学習会や懇談会の開催  
 貴事業所の近くで徘徊高齢者がいれば一緒に探す  
 認知症サポーター養成講座の開催

問3. 実際に地域の方(利用者ではなく)から認知症について相談があったことがありますか。

- はい  いいえ

問4. 問3で「はい」とお答えの事業所におたずねします。相談があった内容はどのような内容でしたか。

( )

問5. 貴事業所では認知症家族の交流会(家族会)がありますか。

- はい  いいえ

問6. 認知症の方やその家族の方との関わりで利用者の症状がよくなったことや悪化したことがあれば具体的に教えてください。

( )

問7. 米子市内に設置されている「認知症疾患医療センター」をご存知ですか。

- はい  いいえ

問8. 「認知症疾患医療センター」に相談されたことがありますか。

- はい  いいえ

問9. 平成21年8月から米子市ふれあいの里に設置してある「認知症連携室」をご存知ですか。

- はい  いいえ

裏面あり



問 10. かかりつけ医、ケアマネジャー、地域包括支援センターとの連携についてお伺いします。

各々について連携が図られていますか。□にチェックをしてください。その上で「とれている」「どちらかといえばとれている」とお答えの場合、具体的にはどのような連携が図られていますか。また「とれていない」場合、連携が図られていない具体例があればお教えてください。

1) かかりつけ医との連携が図られていますか。

とれている                       どちらかといえばとれている                       とれていない

具体的に

( \_\_\_\_\_ )

2) ケアマネジャーとの連携が図られていますか。

とれている                       どちらかといえばとれている                       とれていない

具体的に

( \_\_\_\_\_ )

3) 地域包括支援センターとの連携が図られていますか。

とれている                       どちらかといえばとれている                       とれていない

具体的に

( \_\_\_\_\_ )

問 11. かかりつけ医、ケアマネジャー、地域包括支援センター以外の関係機関で円滑に連携がすすんでいる機関がありますか。

( \_\_\_\_\_ )

問 12. 貴事業所での認知症対策の課題がございましたらご自由にご記入ください。

( \_\_\_\_\_ )

問 13. 連携についての困りごとや行政に対するご意見、ご要望等裏面にご自由にご記入ください。

( \_\_\_\_\_ )

問 14. 貴事業所において連携とはどのように考えられますか。

( \_\_\_\_\_ )

ご協力ありがとうございました。

訪問介護	事業所名	担当者名
		電話番号

認知症の早期発見、早期治療、早期ケアのために地域の方が気軽に相談できる事業所があればよいと思いますが、ご意見をお聞かせいただければ大変有難いです。次のことについておたずねします。

問1 貴事業所で事業所周辺(中学校区)の地域の方と交流することがありますか。

- はい                       いいえ

問2. 問1で「はい」とお答えの事業所におたずねします。それはどのような交流でしょうか。

該当するもの全てお選びください。

- 自治会へ入会  
 自治会での行事(夏祭り、文化祭、運動会等)への参加  
 近くのスーパー、商店への買物  
 貴事業所の見学会の開催  
 貴事業所の行事へ参加してもらう  
 貴事業所のたよりを定期的に発行し回覧、通知している  
 中学生の職場体験を受け入れている  
 小中学生との交流会の開催  
 地域の学習会や懇談会の開催  
 貴事業所の近くで徘徊高齢者がいれば一緒に探す  
 認知症サポーター養成講座の開催

問3. 実際に地域の方(利用者ではなく)から認知症について相談があったことがありますか。

- はい                       いいえ

問4. 問3で「はい」とお答えの事業所におたずねします。相談があった内容はどのような内容でしたか。

( )

問5. 貴事業所では認知症家族の交流会(家族会)がありますか。

- はい                       いいえ

問6. 認知症の方やその家族の方との関わりで利用者の症状がよくなったことや悪化したことがあれば具体的に教えてください。

( )

問7. 米子市内に設置されている「認知症疾患医療センター」をご存知ですか。

- はい                       いいえ

問8. 「認知症疾患医療センター」に相談されたことがありますか。

- はい                       いいえ

問9. 平成21年8月から米子市ふれあいの里に設置してある「認知症連携室」をご存知ですか。

- はい                       いいえ

裏面あり

問 10. かかりつけ医、ケアマネジャー、地域包括支援センターとの連携についてお伺いします。

各々について連携が図られていますか。□にチェックをしてください。その上で「とれている」「どちらかといえばとれている」とお答えの場合、具体的にはどのような連携が図られていますか。また「とれていない」場合、連携が図られていない具体例があればお教えてください。

1) かかりつけ医との連携が図られていますか。

とれている                       どちらかといえばとれている                       とれていない

具体的に

( )

2) ケアマネジャーとの連携が図られていますか。

とれている                       どちらかといえばとれている                       とれていない

具体的に

( )

3) 地域包括支援センターとの連携が図られていますか。

とれている                       どちらかといえばとれている                       とれていない

具体的に

( )

問 11. かかりつけ医、ケアマネジャー、地域包括支援センター以外の関係機関で円滑に連携がすすんでいる機関がありますか。

( )

問 12. 貴事業所での認知症対策の課題がございましたらご自由にご記入ください。

( )

問 13. 連携についての困りごとや行政に対するご意見、ご要望等裏面にご自由にご記入ください。

( )

問 14. 貴事業所において連携とはどのように考えられますか。

( )

ご協力ありがとうございました。

# 調査 II

## 調査対象の概要

### 1. 診療科

内科	神経内科	小児科	精神科	外科	泌尿器科	脳神経外科	総数
41(2)	4(3)	6	7(2)	4	0	1	86
47.7%	4.7%	7.0%	8.1%	4.7%	0.0%	1.2%	100%
整形外科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	産婦人科	不明		
8(1)	3	2	3	5	2		
9.3%	3.5%	2.3%	3.5%	5.8%	2.3%		

### 2. 年齢

30代以下	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70代以上	不明	総数
1	12	22	18	15	18	86
1.2%	14.0%	25.6%	20.9%	17.4%	20.9%	100%

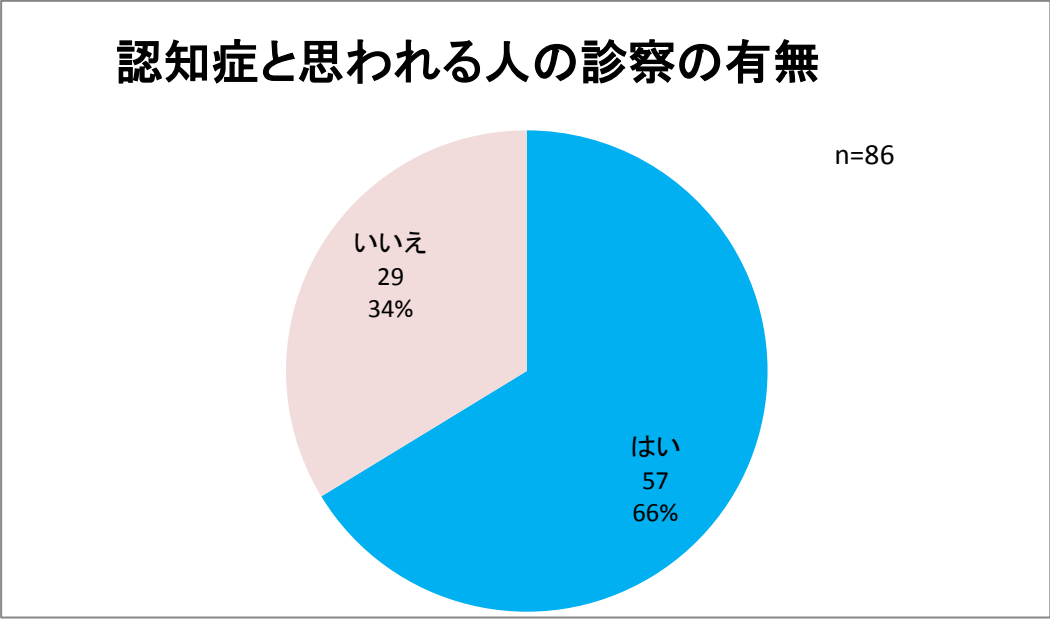
### 3. 回収率

対象数	回収数	回収率
154(11)	86(8)	55.8%

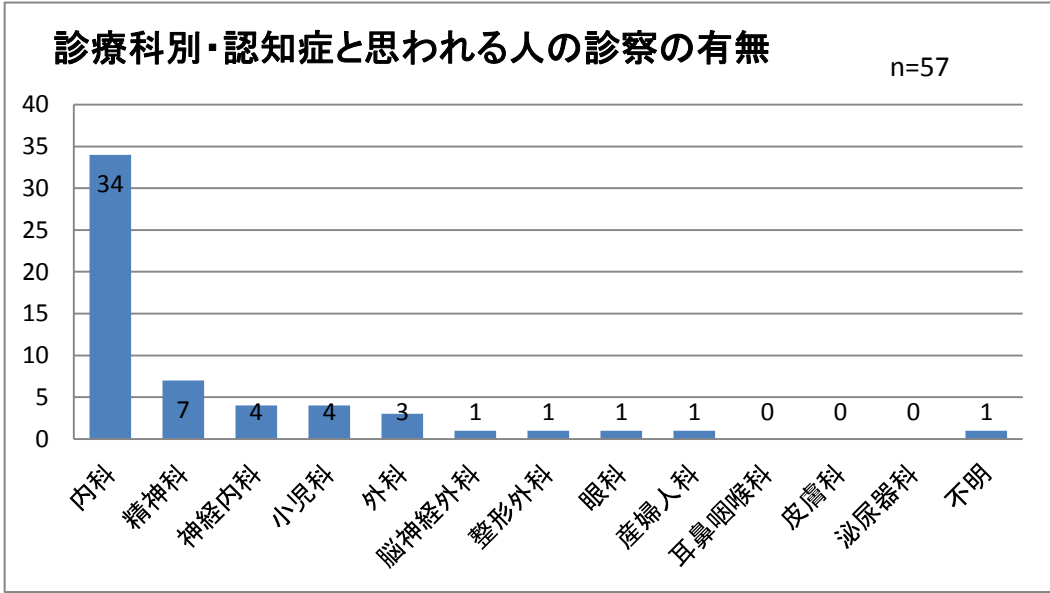
※( )内は病院数

# 調査結果の概要

## 【貴院の診療状況について】



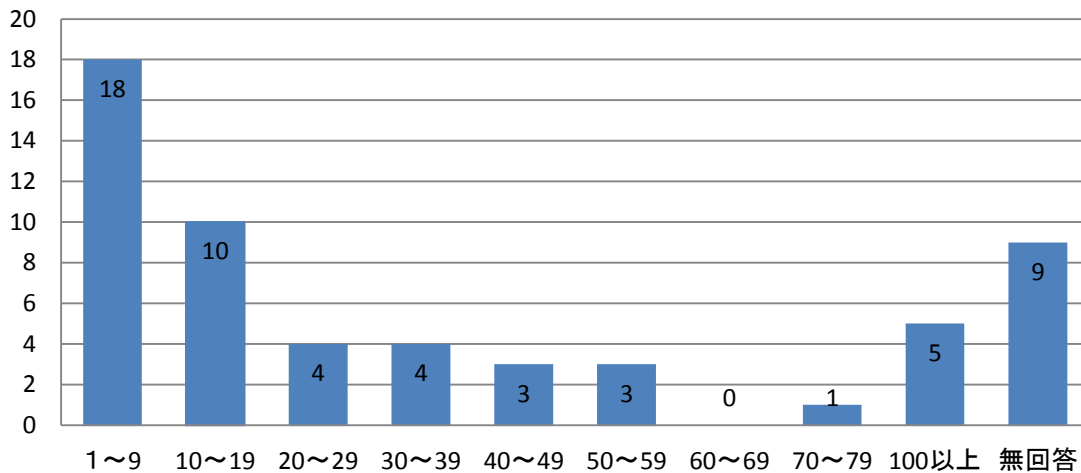
認知症と思われる人の診察をしているかどうかたずねた。診察している医師は86人中57人であった。29人は診察をしていないと答えている。全診療科の医師への設問のため実際に日常診察で認知症の人と関わらない診療科の医師もいるが、約7割の医師が認知症の診察に当たっていると答えている。



認知症と思われる人の診察をしている医師57人の診療科別の数は内科が34人で最も多く、次いで精神科7人、神経内科4人、小児科4人の順である。脳神経外科、整形外科、眼科、産婦人科で各1人であるが診察をしていると回答している。

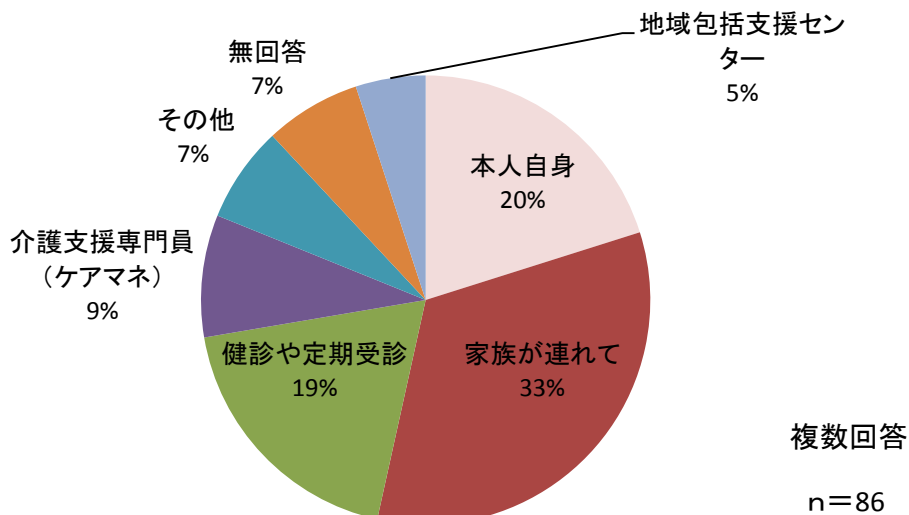
## 認知症患者の年間診察数(全診療科)

n=57



認知症の人の診察をしていると回答した医師57人へ年間の診察数を調査した。年間診察数1~9件が最も多く18件であった。無回答の数の9人の中には、時間がなくてカルテを出して調べることが出来なくて…。とコメント記載もあった。実際には診察をしているが数がわからなくて無回答としている医師もいると思われる。100人以上の5人の回答は病院が4人、診療所が1人であった。診療科別は内科が1件、神経内科が3件、精神科が1件であった。

## 医師からみた受診の動機(認知症の診察に至る経路)



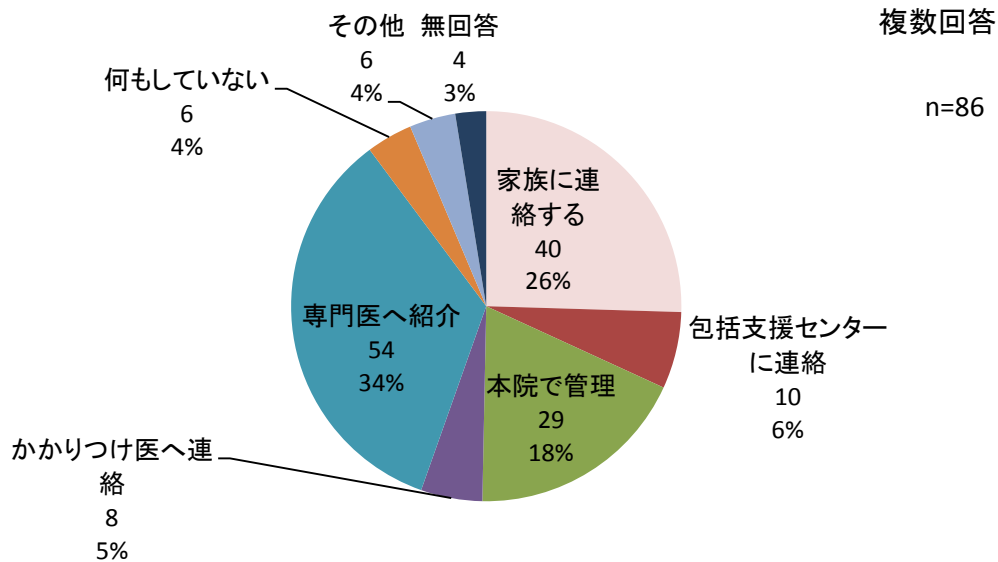
### その他の内訳

- 病院よりの紹介。
- 他院からの紹介。
- ホームドクターからの紹介。
- 普段の診療中に気付く。
- 来院時の患者さんの話と直後の同人の話が食い違うこと
- 認知症があっても整形外科の治療しかしない。
- 施設等より整形疾患の治療。
- 他の疾患で受診時、認知症を疑って対応。
- 他の疾患の患者が認知症を合併している。
- 認知症疑いでその治療希望の受診はない。

医師からみた受診の動機(日常診療でどのような経路で認知症の症状のある人の対応に至るか)調査したところ、「自覚症状があり本人自身が来院する」と回答した医師は20%であった。「家族が本人を連れて来院する」33%、「健診や定期受診でかかりつけ医が発見する」19%、「介護支援専門員」9%、「包括支援センター」が5%であった。

このことから、認知症の人が自ら医療受診するのは20%程度で、5人に1人しかおらず、残りの4人は誰か周りの人が気付いて対応しているということである。逆に言えば、認知症の人は周囲の人が症状に気付いて早期に対応をしなくてはならないと思われる。

### 認知症を疑った時の対応はどのようにしているか

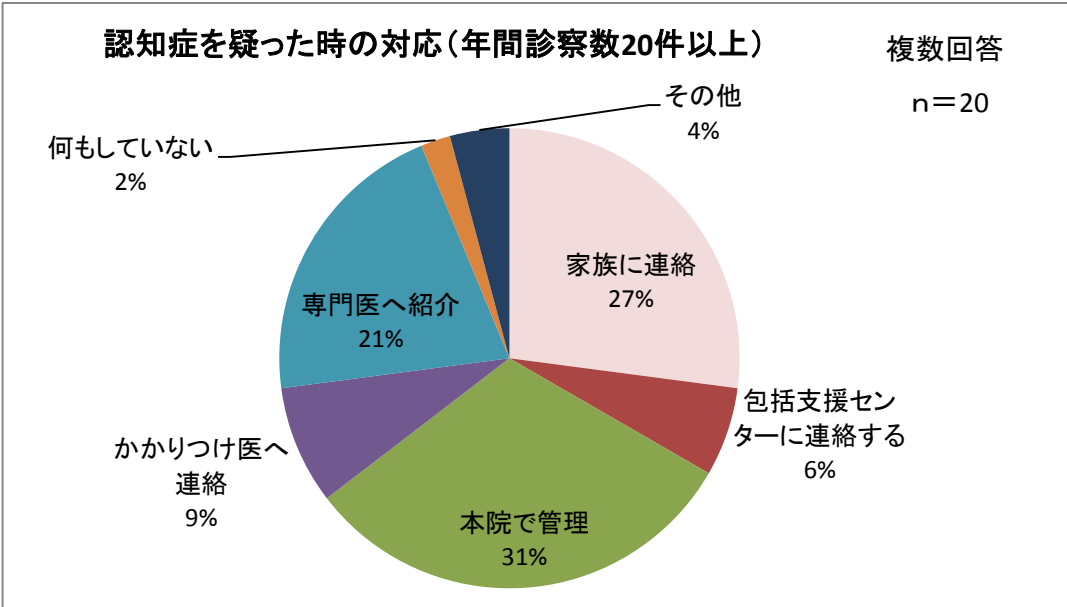
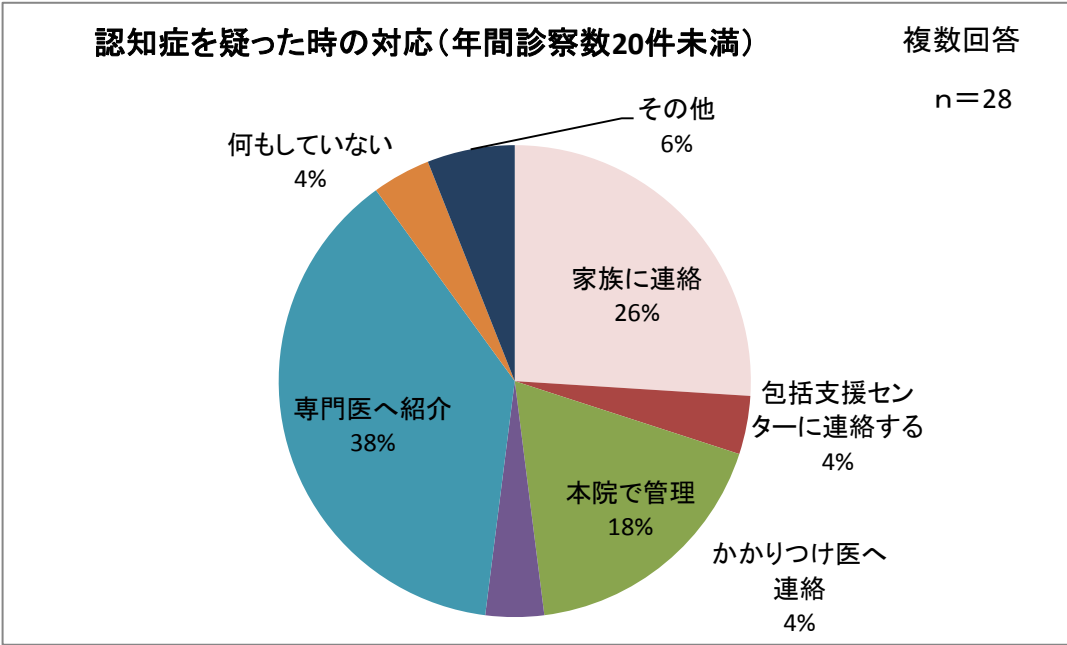


#### その他の内訳

- 専門医と相談
- 専門医へ紹介
- CT、MR等検査を依頼する
- 症例なし
- 認知症を心配して受診される方以外はほとんど診療経験ないです。
- まず、本人に認知症に関する問診と精査の必要性について説明する。次に①の家族に連絡する。その後、包括支援センター、本院で治療、かかりつけ医へ連絡、専門医へ紹介、何もしていないの順である。

日常の診察場面(初診、再診にかかわらず)で認知症を疑った場合の対応については、「専門医に紹介」と答えた医師が54人(34%)で最も多く、次は「家族に連絡する」が40人(26%)であった。「本院で管理している」は29人(18%)、「包括支援センターに連絡する」は10人(6%)であった。

この結果は認知症のレベルによっても対応は異なると思うが、86人中54人の医師が認知症を疑ったら専門医へ紹介をしており医師が認知症を疑ったら専門医へという認識が高いのではないと思われる。ただ、質問で専門医の定義がなく専門医のとらえ方が様々であったと思われる。また、後に出てくる質問では紹介先が分からないという意見もみられた。

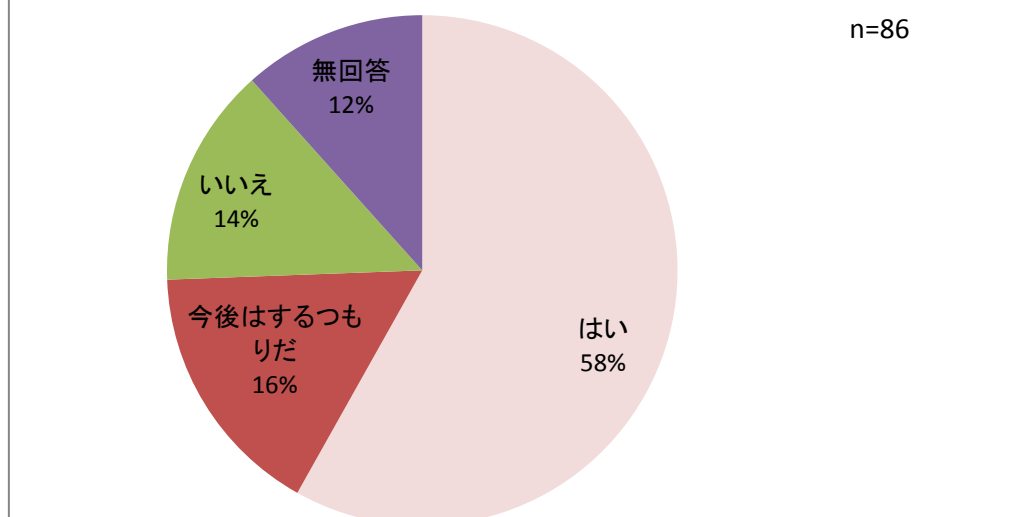


認知症の診察数が年間20件未満の医師と20件以上の医師の2群に分け「認知症を疑った時の対応について表記した。「家族に連絡する」は20件未満は26%、20件以上は27%で両者の差は1ポイントの差であった。「本院で管理している」は20件未満で18%、20件以上で31%であり、両者に13ポイント差があった。「専門医へ紹介する」は20件未満で38%、20件以上で21%であり、両者は17ポイントの差があった。「かかりつけ医に連絡する」は20件未満で4%、20件以上で9%であり、5ポイントの差があった。

このことから、20件未満の医師は20件以上の医師と比較し専門医へ紹介することが多く、20件以上の医師は自身の診療所や病院で治療していることが多いことがわかった。



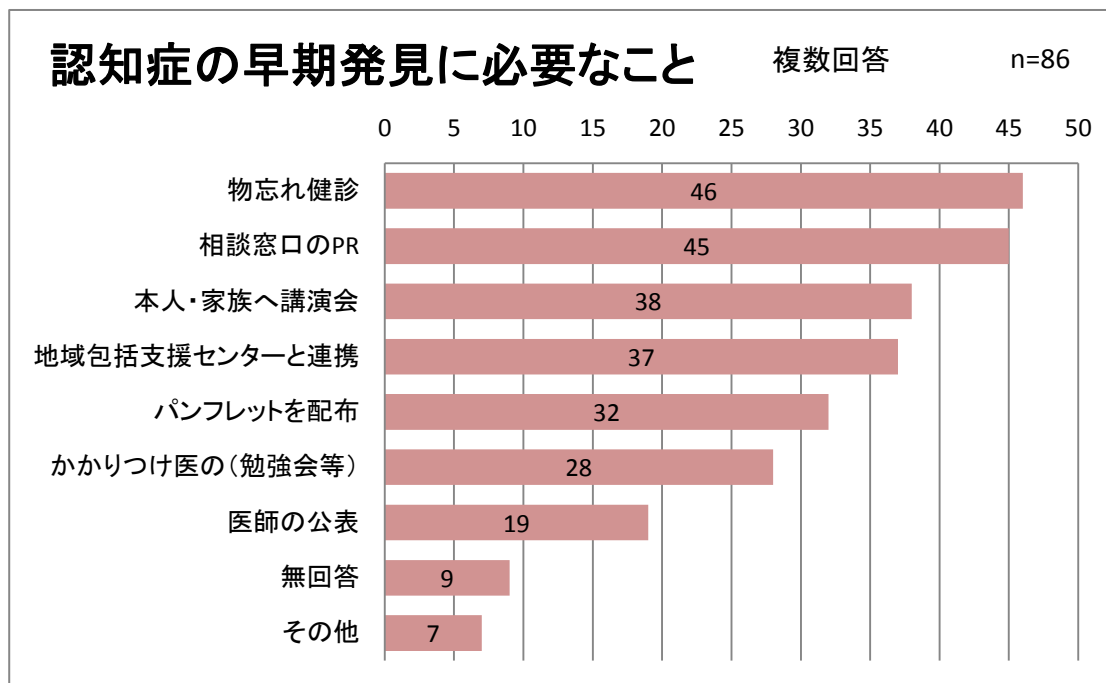
## 認知症の人の家での様子の確認



認知症の症状のある人が一人で受診した場合、後で家族へ家での様子を確認しているか調査したところ、「はい」と回答した医師の割合が58%である。「いいえ」の割合が14%、「今後はするつもりだ」が16%である。家での様子を確認していない医師は「いいえ」と「今後はするつもりだ」を合わせると30%であった。

診察場面での緊張し、かしまった人の様子と家庭での普段の様子には違いがあり、家族に自宅での症状や家族が困っていることを聞いてみないとわからないと思っている医師が半数以上を占めている。

## 【早期対応について】



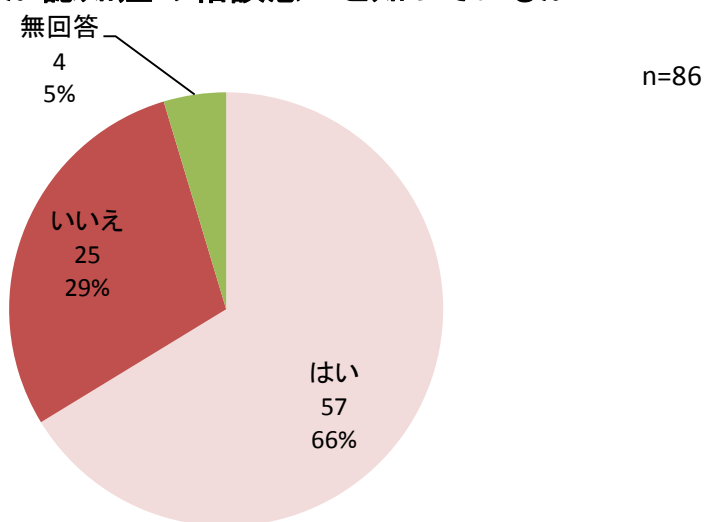
### その他の内訳(自由回答)

- 認知症を意識しての日常診療
- 主治医(かかりつけ医)に話してみること。
- 質問の意味が不明。専門医の診断能力にもバラツキがあるのに。
- 患者さんを専門医受診を納得させる訓練の講習を希望
- 認知症に興味がありません。
- かかりつけ医と家人との連携
- 老人健診と一緒に認知症の検診もすること。

認知症の早期発見、早期治療の早期とは、「本人がなんかおかしい、うまくいかない、なんか違うという自覚がでてから初診に至るまでの間の出来るだけ早い時期を早期と考えます。」と解釈のもと、認知症の早期発見のために必要なことは何か問うと、「物忘れ健診(指標のあるスクリーニング方式)」が46人、「認知症の相談窓口を積極的にPRする」が45人、「家族・本人への認知症の症状の知識の普及・啓発として地区で講演会をする」が38人であった。その他の意見では「患者さんを専門医受診を納得させる訓練の講習を希望」とあり、現場の医師、ケアマネジャー、保健師、相談員、家族が最も困っている事と思われる。今後は関係者間で情報交換等行い早期発見・早期対応に努める必要があると考える。

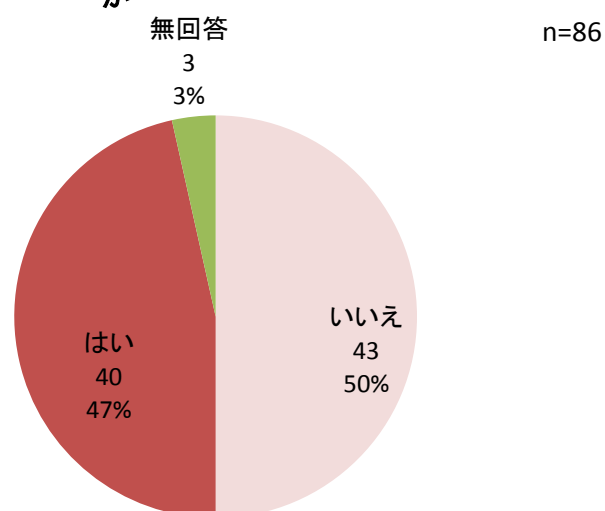
## 【地域包括支援センターについて】

### 包括支援センターが認知症の相談窓口と知っているか



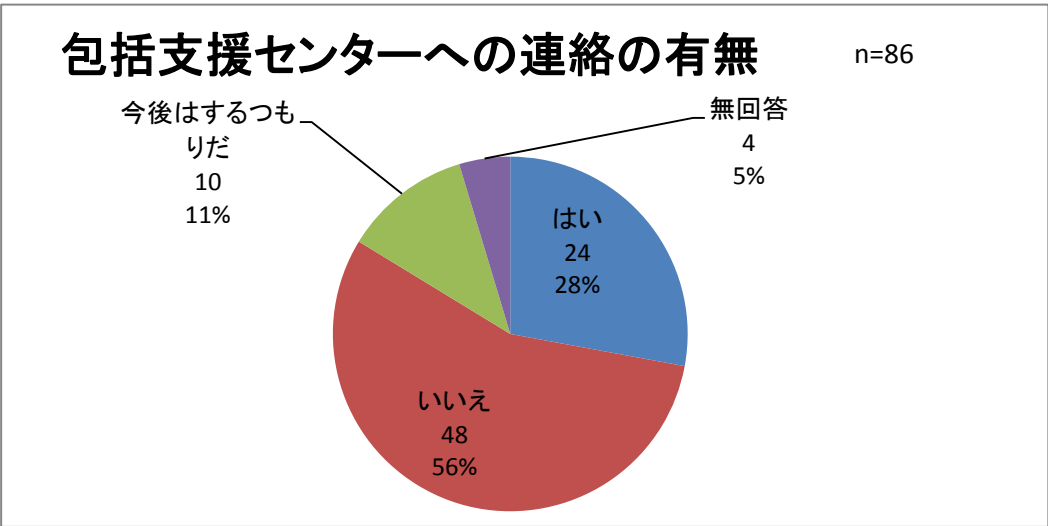
各地域包括支援センターが認知症の相談窓口の一つとして存在していることを知っているかたずねたところ、「はい」と回答した医師の割合が66%であり、6割以上の医師が包括支援センターが医療面以外(生活支援)で相談できることを知っていると思われる。「いいえ」と回答した医師は29%で3割の医師は包括支援センターが認知症の相談を行っていることを知らないと回答している。

### 包括支援センターが高齢者実態調査の状況を把握していることを知っているか



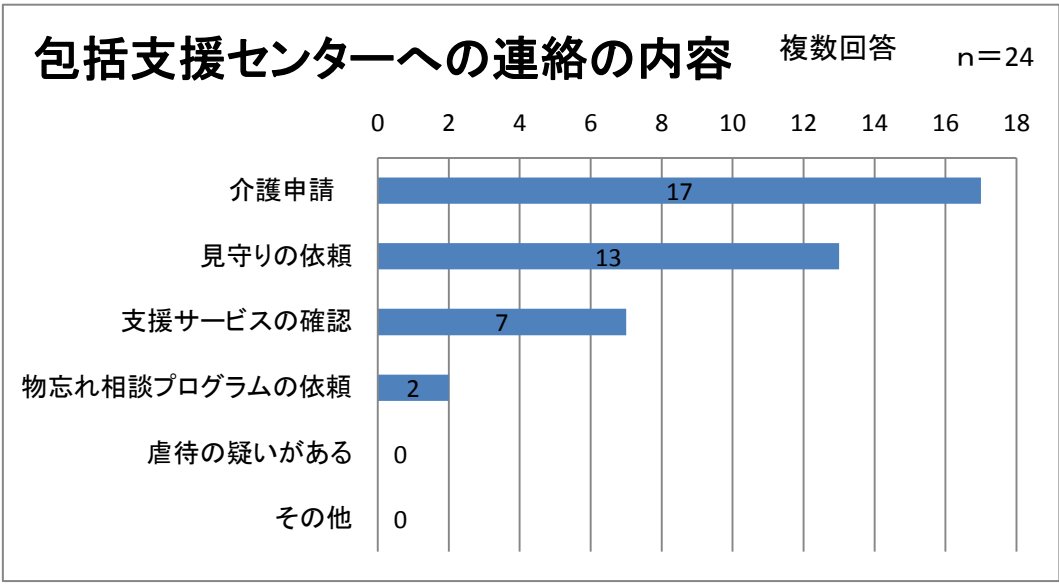
米子市が行う65歳以上の高齢者世帯、独居世帯の実態調査を各地域包括支援センターが把握していることを知っているかたずねたところ「いいえ」と回答した医師の割合が50%であり、「はい」と回答した医師の割合が47%であった。

各包括支援センターは高齢者世帯や独居世帯の緊急連絡先等把握しており、家族や近隣と連絡をとったりしている。高齢者の対応に困った時は、最寄の包括支援センターに連絡していただくと本人や家族、医師にとっても有益となることを医師にPRしなくてはならないと考える。



認知症の症状のある人の相談で地域包括支援センターへ連絡をしたことがあるかたずねたところ「はい」と回答した医師の割合は28%であった。「いいえ」と回答した医師の割合が56%であり、「今後はするつもりだ」と回答した医師の割合は11%であった。

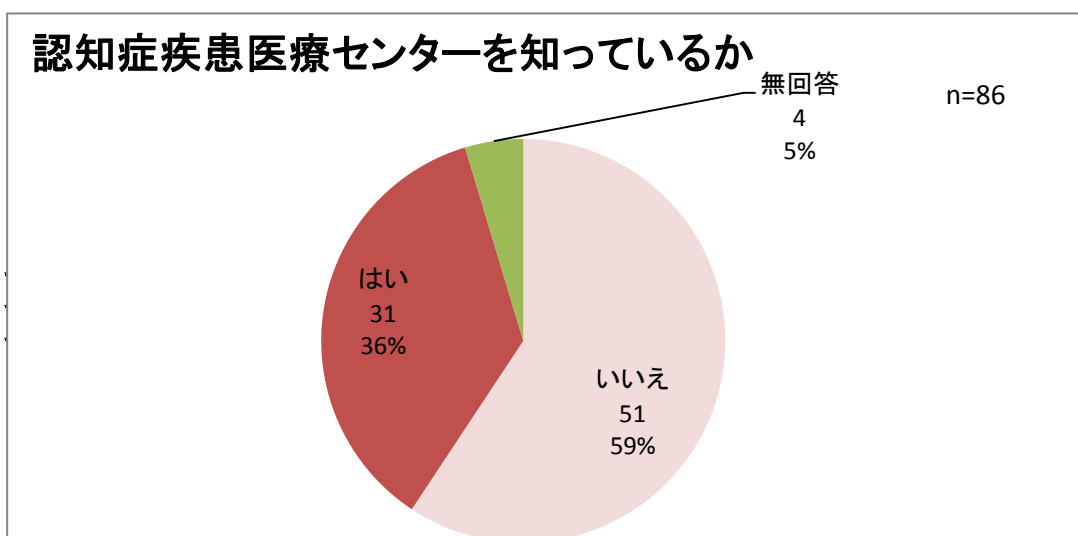
介護保険の申請等で関わりのある診療科は「はい」の回答が多いのではないかと推測される。



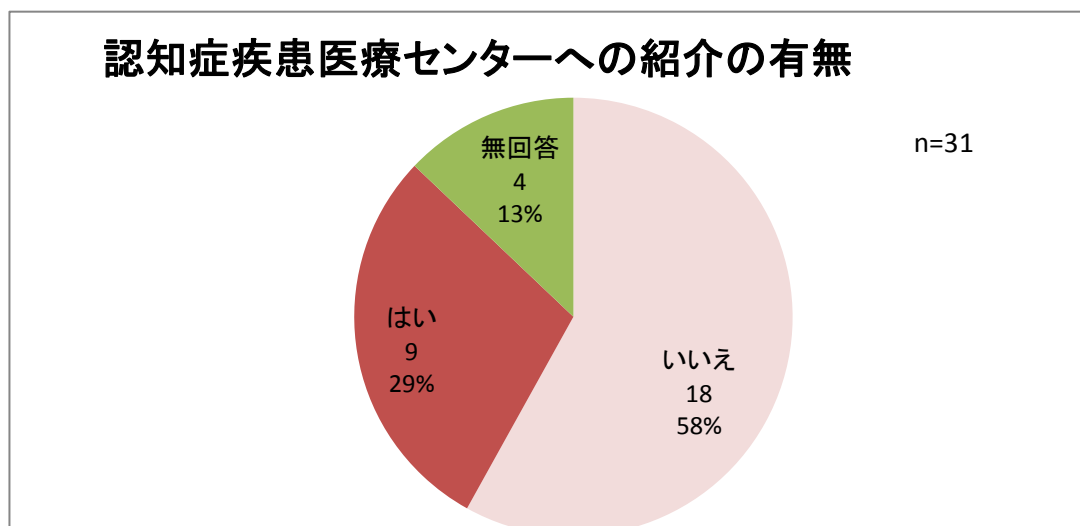
地域包括支援センターへ連絡をしたことのある医師24人にどのような連絡内容であったかたずねたところ「介護申請」と回答した医師が17人であり、「見守り支援」と回答した医師が13人、「支援サービス内容の確認」が7人であった。

医師ではなかなか難しい日常生活の支援では、各地域にある包括支援センターを活用し本人や家族の負担を軽減していくことが必要だと考える。

## 【認知症疾患医療センターについて】



「認知症疾患医療センター」を知っているかたずねたところ、「いいえ」と回答した医師の割合が59%であり、「はい」と回答した医師の割合が36%であった。  
約6割の医師が「認知症疾患医療センター」を知らないと回答しており、PR不足を感じられた。  
今後は「認知症疾患医療センター」の機能、役割を理解し、活用していただくための説明会等を医師会へ向けて実施していく必要があると思われる。



「認知症疾患医療センター」を知っていると回答した31人に「認知症疾患医療センター」に紹介をしたことがあるかたずねたところ、「いいえ」と回答した医師の割合が58%であり、「はい」と回答した医師の割合が29%であった。  
「はい」と回答した医師の実数は9人であり、「いいえ」と回答した医師は18人であった。  
「認知症疾患医療センター」の存在を知っていても、「認知症疾患医療センター」の顔が見えなければ、なかなか紹介しにくいと思われ、今後は医師会をとおして「認知症疾患医療センター」の機能、役割、スタッフ等のPRの機会を設けていきたいと考える。

## 「認知症疾患医療センター」をより充実させるには(自由回答)

### PR活動

- センターの存在のPRをもっと
- まずはPRしてください。
- PRすること。
- センターの啓蒙
- 広報
- まずは存在を知ってもらう

### 研修会

- 研修
- どの様な症状があれば紹介させていただけばよいか勉強したい。

### 受け入れ体制

- 入院の必要な人をすぐに受け入れることができる。
- 常時病床確保
- 重症患者の受け入れ
- ベッドの確保、合併症への対応
- 周辺症状のある患者の相談の拡充

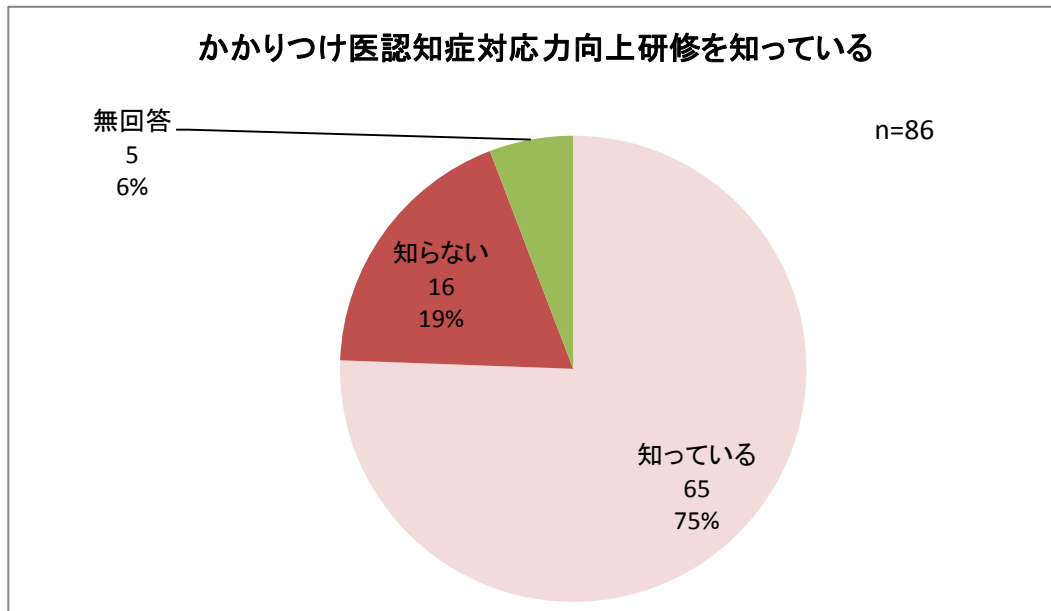
### 連携の強化

- 医師、包括支援センター、地域自治会、市民が助け合い見守りで、協働しなければならない。
- 認知症の方が身体的疾患で入院が必要となった場合の受け入れ又は一般病院への紹介をしてもらいたい。認知症疾患センターと一般病院との連携をしっかりとって欲しい。
- 連携を緊密にする
- 連絡協議会のような会で話し合いの場を持ち、連携の仕方について又症例について検討をする機会を持つ。

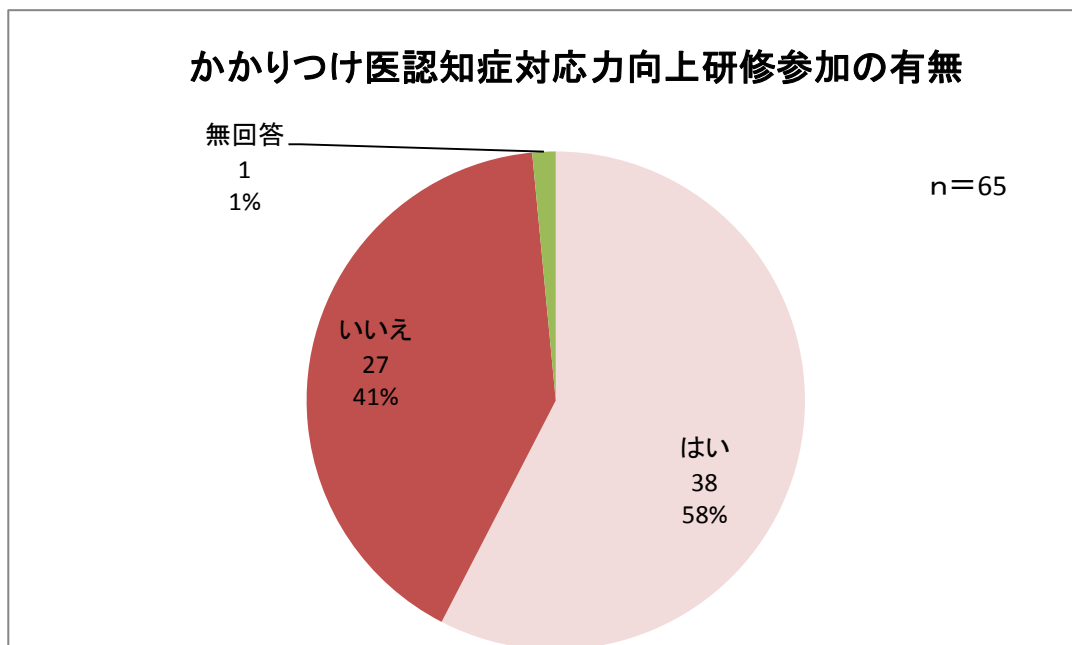
### 質の向上

- 積極的に認知症診療を行っていただきたい。
- 専任スタッフの充実
- 紹介をしたくなるような医療センターの質の向上
- 市内から遠すぎる。実際にたいした機能をしていないのではないか？廃止して病院あるいは脳神経内科医の利用を図るべきではないか。
- 特別に必要とは思わない

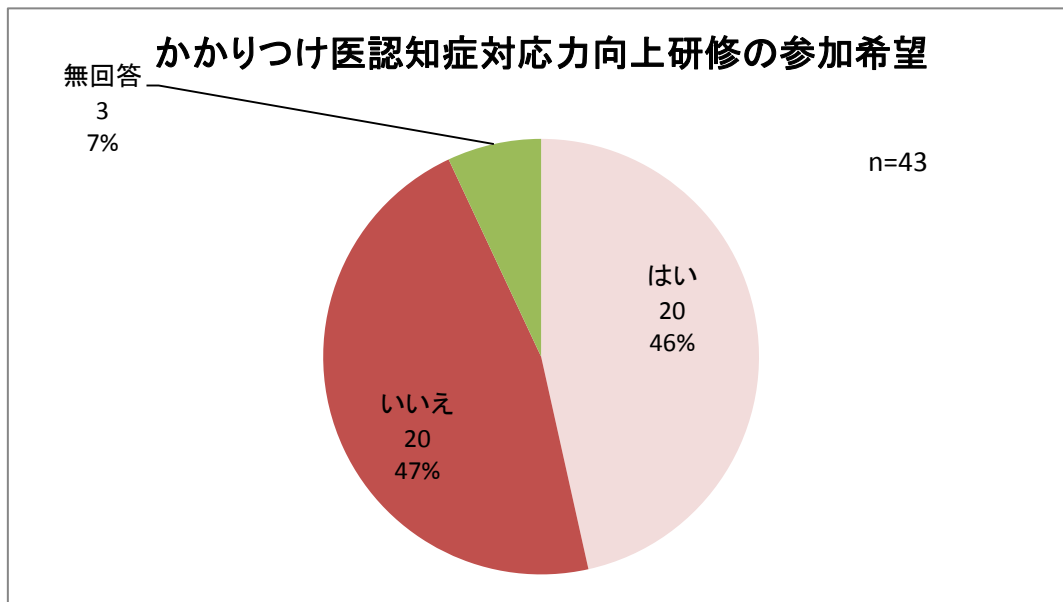
## 【かかりつけ医認知症対応力向上研修について】



「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を知っているかたずねたところ、「知っている」と回答した医師の割合は75%であり、「知らない」と回答した医師の割合は19%であった。両者には56ポイントもの差がみられる。日常診療で認知症と関わりのない診療科の医師は「知らない」と回答した割合が高いと推察される。

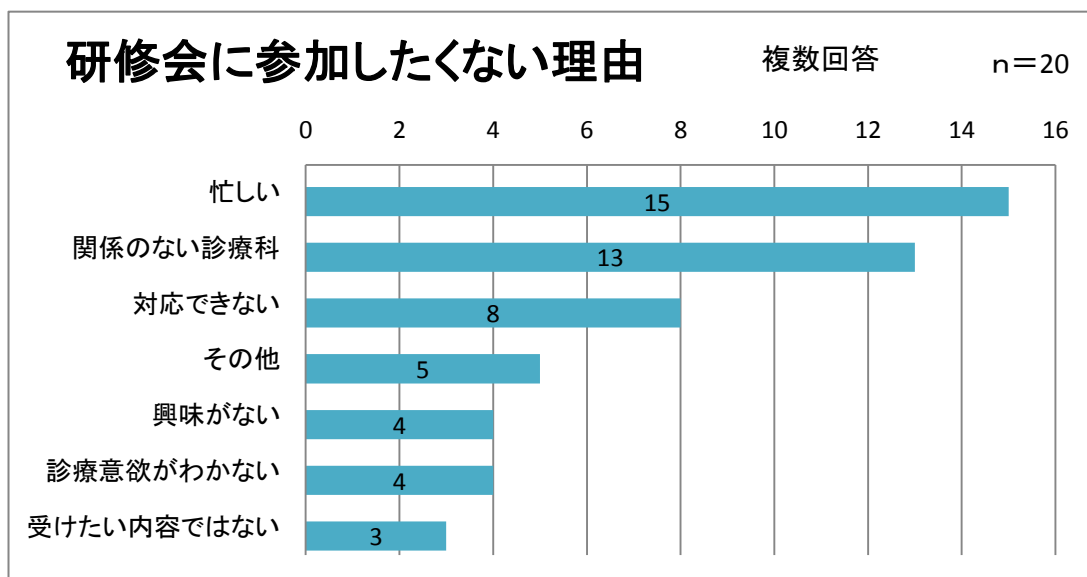


「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を知っていると回答した医師65人に「一度でも参加されたことがありますか」とたずねたところ、「はい」と回答した医師は38人(58%)、「いいえ」と回答した医師は27人(41%)であった。両者の差は17ポイントであった。



次に「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を知らないと回答した医師16人と「かかりつけ医認知症対応力向上研修」を知っていて一度も参加したことがない医師27人、合わせて43人に「参加してみたいと思われませんか」とたずねた。

「はい」と回答した医師は46%、「いいえ」と回答した医師は47%であった。両者にはほぼ差がなく、希望が半数に分かれる回答であった。



#### その他の内訳(自由回答)

- むなしさを感じる。
- 専門医が多くのメディアで講義している。
- 病理、病態生理を詳しくご教示いただければよいと思います。その他のことは不要です。
- かかりつけ医が高齢により身体的に難渋する。
- 認知症対応力は一応出来ていると考えている。

「かかりつけ医認知症対応力向上研修」に参加希望のない医師20人に理由をたずねたところ、「忙しく研修に行く時間がない」15人、認知症とは関係のない診療科だから13人、「日常診療で対応できない」8人の順であった。

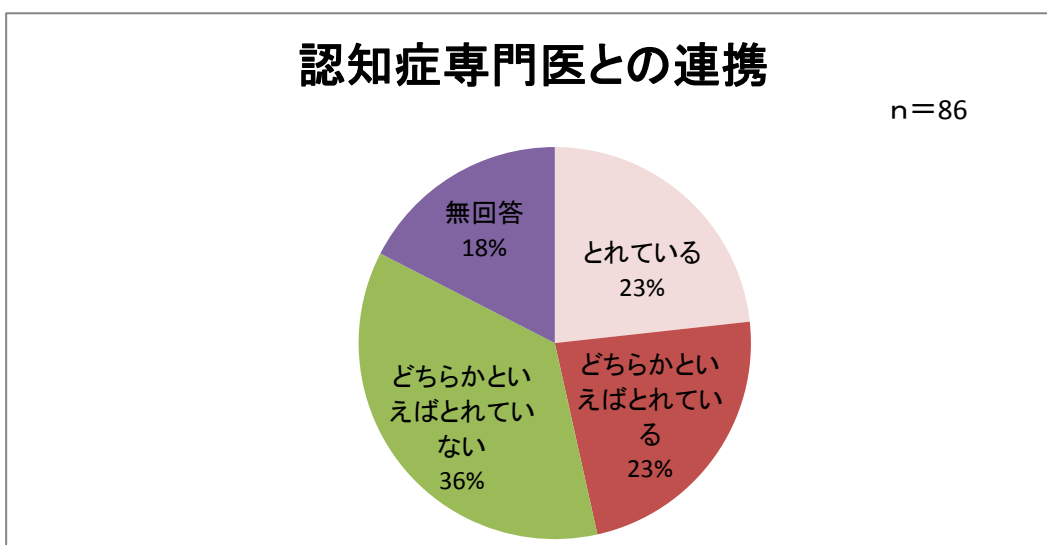


## 「かかりつけ医認知症対応力向上研修」への要望

- 周辺症状への対応のマニュアルなどが欲しい。
- 多忙の中でなかなか研修に出かけられませんが1ヶ月に1回でも講義があると良いと思います。
- 例年年度末(年の後半)に実施されるが、年度はじめ(前半)から開始して欲しい。
- 周辺症状を有する患者への対応について
- 毎年同じプログラムはダメ。「地域での支援体制作りの場として活用」
- 認知症患者や家族の思いを直接聞いてみたい。医療、介護に対しての要望も含めて。
- 家族や医師が認知症を疑っても自尊心や病識のなさで専門医の受診にこぎつけることが難しい。患者さんにその気にさせる方法の研修会を。
- 多忙な先生方の日常診療の中でどういシステムが可能か他職種も参加して考えていく場。
- 普段の診療中、簡単に患者を見つけられる方法。
- 簡単なスクリーニング法を研修で紹介して欲しい。

認知症治療に前向きな意見が多く、研修プログラムの内容、開催時期を見直して欲しい等の意見があった。講義や講演だけでなく医師同士、他職種も交えてのディスカッションも必要ではないかと思われる。

### 【各関係機関との連携について】



#### より良い連携の方法の回答(自由回答)

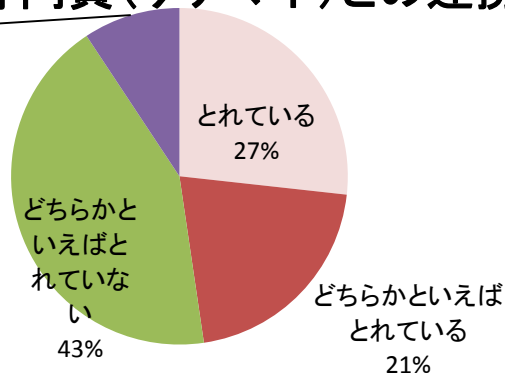
- 丁寧な紹介状を書くように努力する
- どこに専門医がいるのか知らない。大学の認知症外来には紹介している。
- PSWが行っている。
- 主には画像診断・・・それにより対応が異なるため非薬物的対応も含めて。

認知症専門医と連携が図られているかたずねたところ、「とれている」と回答した医師は23%、「どちらかといえばとれている」と回答した医師は23%、「どちらかといえばとれていない」と回答した医師は36%であった。専門医の定義がなされていない質問であり専門医のとらえ方が医師によって様々であったと思われる。より良い連携の方法で「どこに専門医がいるのか知らない」という声があった。医師だけではなく、一般市民に関しても同様なことが言える。かかりつけ医の医師には「専門医はここにいます！」と紹介先を明確にしておく必要があると思われる。

無回答  
9%

## 介護支援専門員(ケアマネ)との連携

n=86



### より良い連携の方法の回答

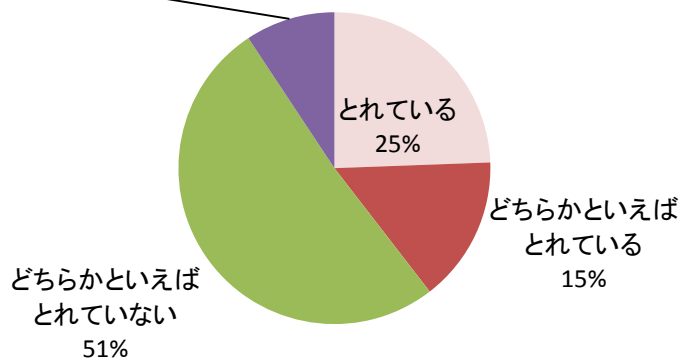
- ケアマネさんからの情報は診察中には得られないものが多くとにかく話を良く聞くように努力する。時間を作る。とにかく仲良くする。
- とりたくない、関わりたくない
- PSWが行っている。
- 日常生活の情報を伝えて欲しい。

介護支援専門員(ケアマネ)と連携が図られているかたずねたところ、「とれている」と回答した医師は27%、「どちらかといえばとれている」と回答した医師は21%、「どちらかといえばとれていない」と回答した医師は43%であった。

無回答  
9%

## 包括支援センターとの連携

n=86



### より良い連携の方法の回答(自由回答)

- 包括を訪問してみる。
- センターがどんな活動をしているのかもっとPRして欲しい。
- PSWが行っている。
- 家人に認知症に対する理解(ありふれた疾病であること)を深めてもらいたい。

包括支援センターと連携が図られているかたずねたところ、「とれている」と回答した医師は25%、「どちらかといえばとれている」と回答した医師は15%、「どちらかといえばとれていない」と回答した医師は51%であった。半数以上の医師が「包括支援センター」との連携を「どちらかといえばとれていない」と回答しており「包括支援センター」の機能、役割等のPRの強化がさらに必要と思われる。

## 認知症の症状のある方の診察、対応で困りごとや悩み(自由回答)

### 施設の問題

- 家では看護することの出来ない人で入院又は入所が必要な場合がありますが、受け入れ先が見つからず困っています。
- 入居施設の不足。
- 自宅で介護困難になった時に入所が出来ないことが一番困ります。
- 公的機関としての施設をつくっていただきたい。民間の事業所には紹介したくない。

### 家族の問題

- 本人家族は隠そうとされ、個人情報を追いつめると症状悪化される。
- 家人に連絡しても、様子を見よとの返答がなく認知症の鑑別診断等のため画像検査も出来ず、今後の治療方針が立たないこともあり。

### 紹介先

- 自院では対応しきれない(声かけ等では)場合の紹介先の選択方法が判らない。「どこに紹介してよいか」です。
- 原則として脳神経内科専門医に紹介しています。
- 周辺症状のある患者を専門医へ紹介する時のタイミング等に困っている。
- 診療所で行える鑑別には限界があります。きちんとした診断をするにはある程度設備の整った施設(病院)へお願いしなければならないのですが、どこへ紹介するとよいのかの情報が少ない。精神症状が強くなった患者さんの相談をしたい場合も同様。
- ホームドクターからの紹介が多いが、紹介される前に簡単なスクリーニング検査程度はしてほしい。

### 地域の支え合い

- 家族の理解が不足。人はいつか「死ぬ」「病気になる」「独りで生きては行けない」という危機管理意識の向上。認知症に限らず疾病を持った人の生活支援が重要。自治体を含めた地域の支え合い体制作り。

### 独居・高齢者世帯の問題

- 独居で身寄りのない認知症患者の対応。
- 独居の認知症。
- 独居老人・後期高齢者のみの家庭が多い中(増して来ている)、キーパーソンになる人が見つからなくて困る。

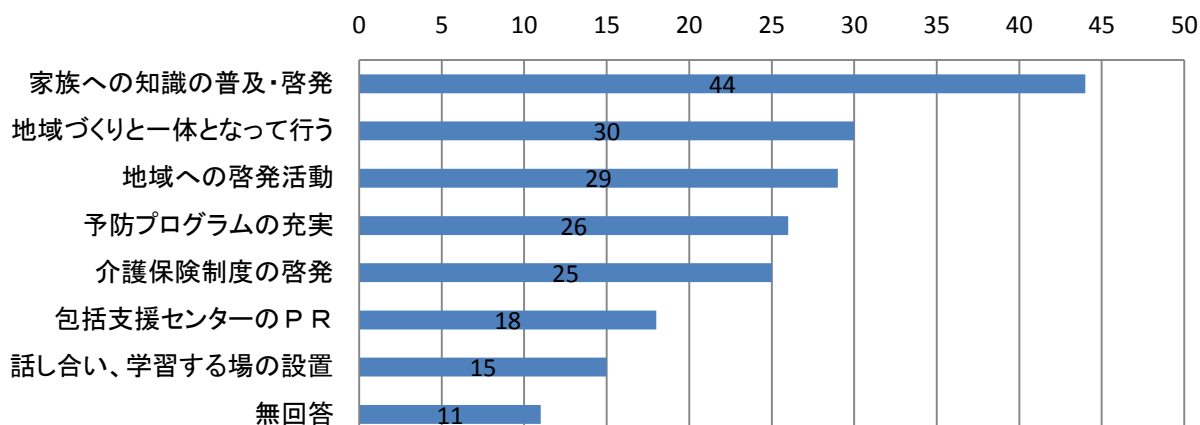
### 診察に関すること

- 本人の診察にも、家族との相談にもかなり時間を要し、一人の医師では他の患者の診察に支障がでてくる。
- 有効な治療が少ない。
- 重度の認知症への対応(特に在宅療養を行う場合)。
- 悪化した時の対応。
- 周辺症状(精神症状)の強いかたの症状悪化時に、一般病棟(内科)の入院は困難ですし、精神科もすぐに入院は難しいため、在宅で家人がみてから薬物療法をする場合がよくあります。家人の負担も大きくこのようなサービスの利用がすぐに出来ればと思うケースがあります。
- 認知症の経験なし。

施設の受け入れの問題、家族への対応方法、かかりつけ医からは専門の紹介先が分からない、専門医からは紹介前に簡単なスクリーニング検査程度はお願いしたいとの意見が出ていた。かかりつけ医と専門医の連携を深め、お互いが分かり合い協力して地域の認知症対策の底上げをしていく必要がある。

## 認知症になっても安心して暮せるために 重要なこと

複数回答 n=86



## 認知症対策に関する行政への意見(自由意見)

### 施設

- グループホーム又は認知症専門受け入れ病棟の増設をお願いします。

### 地域づくり

- 最後まで安心して暮せる地域づくりに尽きると思います。

### 継続する

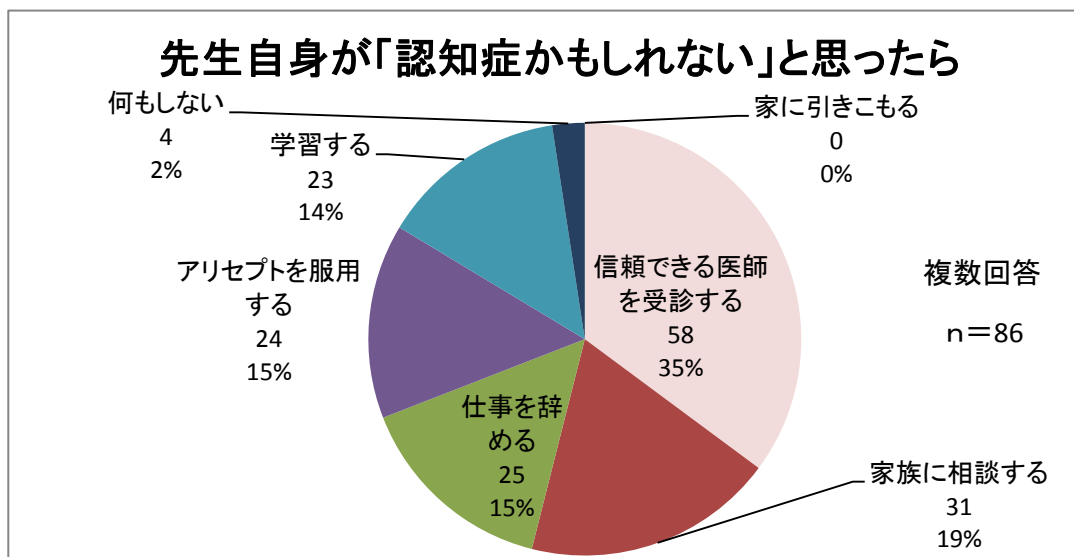
- 認知症対策事業を継続すること。国の補助金がなくなったら自然消滅とならないように！市の事業として末長く続けて下さい。
- 積極的に取り組んで欲しい。
- 認知症の人を自分の事と対応しなくてはならない。

### 実態把握

- このアンケートもそうですが、まず、認知症患者の実態の把握が大事では。独居高齢者の認知症などは高齢者独居全戸訪問でもしないと分からないかも。
- 全般として設問の意味が不明で答えようがない。
- 介護保険制度の認知症対応の充実。
- 個々で対応力に差があるので「・・・センター」という考え方には疑問を感じる。
- 認知症があっても介護認定で比較的介護度が軽かったり、対象外になることがあります。又、認知症以外の高次脳機能障害も対象外になることがあります。このような方が自由に参加できるリハビリの場がもう少しあると助かります。

認知症の人と家族が安心して暮せる地域となるために重要と思うものを選択してもらった。多い順に「家族が認知症に気付くための知識の普及・啓発」44人、「認知症対策の取り組みは特別なことでなく、地域づくりと一体となっていく」30人、「認知症のひとに対しての偏見をなくすための啓発活動」29人であった。行政への要望も積極的に取り組み、末長く継続してもらいたいとあった。

認知症対策は一にも二にも啓発に尽きるという感を強くした。こつこつと地道な活動を続けることが重要である。



#### ご意見(自由回答)

- 「寝たきりゼロ」的な発想にならないことを祈ります。
- 家族がすることにまかせる。
- 医者辞めると思う。かなり落ち込んでしまうと思う。この苦しみを誰か(家族以外の人に)聞いて欲しい。
- 自分らしい生活をする。少し出来なくなるだけである。差別しない。
- 当院では認知症が疑われる患者さんには自院で簡易テストを行い、明らかな方は専門医へ紹介。可能性(疑われる方)は包括支援センターに紹介。物忘れプログラムを受けてもらい結果をみて専門医紹介、確定。診断後は当院で加療開始。包括支援センターに連絡の流れです。

認知症を医師の立場でなく「自分自身の問題」として考えていただきたくて作った質問であった。

医師自身が「もしかして自分は認知症かもしれない」と思われたらどうしますか。とたずねてみた。「信頼できる医師を受診する」と回答した医師が最も多く58人(35%)であった。

次に「家族に相談する」が31人(19%)、「仕事を辞める」が25人(15%)、「アリセプトやメモリーを服用する」が24人(15%)であった。

## 認知症の早期発見と連携についての調査

認知症になっても安心して住みなれた地域で暮らすことができることを実現させるためには、地域の支援体制を整える必要があります。そのために認知症の早期発見、医療連携、地域連携の実態を知り、認知症のケア体制を構築する目的で、次のことについておたずねします。

日頃の診療で「もしかして認知症かもしれない？」と思われる人を想定しお答えください。色々なご意見をお聞かせいただければ大変有難いです。ご協力よろしく願いいたします。

1. 先生の診療科は何科ですか。(ひとつだけお選びください)				
①内科	②神経内科	③小児科	④精神科(心療内科)	⑤外科
⑥泌尿器科	⑦脳神経外科	⑧整形外科	⑨眼科	⑩耳鼻咽喉科
⑪皮膚科	⑫産婦人科			
2. 先生の年齢はおいくつですか。 ①30代以下 ②40代 ③50代 ④60代 ⑤70代以上				
3. 診療所はどちらですか。 ①米子市 ②境港市 ③西伯郡 ④日野郡				

### 【貴院の診療状況について】

認知症の診断やその後のサービスへの連携については、かかりつけ医の役割が大きいですが、せっかく家族や本人が認知症ではないかと受診しても、認知症の診断が適切に行われないと意味がありません。日常の診療状況についてお伺いします。

問 1. 貴院では、認知症と思われる人の診察をしていますか。

- ① はい ② いいえ

問 2. 貴院では、認知症の人の診察を年間何人くらいなさっていますか。ご記入ください。

( ) 人 / 年

問 3. 貴院では、日常診療でどのような経路で認知症の症状のある人の対応に至りますか。

該当するもの全てに○をしてください。

- ① 本人が健診や定期受診で来院する  
② 物忘れ等の気になる症状があり、家族が本人を連れて来院する  
③ 物忘れ等の気になる自覚症状があり、本人自身が来院する  
④ 地域包括支援センターを通じて来院する  
⑤ 介護支援専門員(ケアマネ)を通じて来院する  
⑥ その他( )

問 4. 日常の診察場面(初診、再診にかかわらず)で認知症を疑った場合、対応はどうしていますか。

該当するもの全てに○をしてください。

- ① 家族に連絡する  
② 包括支援センターに連絡する  
③ 本院で管理(検査、治療、経過観察)している  
④ かかりつけ医へ連絡  
⑤ 専門医へ紹介  
⑥ 何もしていない  
⑦ その他( )

問 5. 貴院では認知症の症状のある人が一人で受診した場合、後で家族へ家での様子を確認しておられますか。該当するもの一つに○をしてください。

- ① はい ② いいえ ③ 今後はするつもりだ

### 【早期対応について】

認知症の早期発見、早期治療の早期とは、いつのことか・・・ 認知症介護研究・研修センターの調査では、本人自身は、周囲の人(家族や職場、知人、地域の人など)が変化に気づく以前(数ヶ月から長い場合は5年以上前)から、戸惑いや不可解さ、疲労や苦痛等を体験しており、医療や介護等専門職の支援にたどり着くまでに3年以上経過している人が8割を越えると報告があります。

上記のことから、早期とは本人がなんかおかしい、うまくいかない、なんか違うという自覚がでてから初診に至るまでの間の出来るだけ早い時期を早期と考えます。早期対応についてお伺いします。

問 6. 認知症の早期発見のために必要なことは何だと思われますか。該当するもの全てお選びください。

- ① 物忘れ健診(指標のあるスクリーニング方式)
- ② 本人・家族への認知症の症状の知識の普及・啓発として地区で講演会をする
- ③ かかりつけ医で認知症を診察できる医師のリストを公表する
- ④ 認知症の相談窓口を積極的にPRする
- ⑤ 早期治療のメリット等知識の普及・啓発としてパンフレットを配布する
- ⑥ かかりつけ医の受け入れ体制づくり(勉強会等)
- ⑦ 地域包括支援センターとの連携
- ⑧ その他( )

### 【地域包括支援センターについて】

各市町村には高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心して生活が出来るよう支援を行う地域包括支援センターがあります(別紙1参照)。地域包括支援センターについてお伺いします。

問 7. 各地域包括支援センターが認知症の相談窓口の一つとして存在していることはご存知ですか。

- ① はい
- ② いいえ

問 8. 高齢者実態調査で各地域包括支援センターが高齢者世帯や独居世帯の状況を把握していることをご存知ですか。

- ① はい
- ② いいえ

問 9. 認知症の症状のある人の相談で地域包括支援センターへ連絡されたことがありますか。

- ① はい
- ② いいえ
- ③ 今後はするつもりだ

問 10. 問 9 で①「はい」にチェックをされた方へ質問します。連絡はどのような内容でしたか。該当するもの全てお選びください。

- ① 介護申請
- ② 虐待の疑いがある
- ③ 支援サービス内容の確認
- ④ 見守り支援の依頼
- ⑤ タッチパネル式物忘れ相談プログラムの依頼
- ⑥ その他( )

### 【認知症医療疾患医療センターについて】

平成21年度から米子市(養和病院)と南部町(西伯病院)に設置されました認知症の専門的な医療を提供する「認知症疾患医療センター」についてお伺いします。(別紙2参照)

問 11. 「認知症疾患医療センター」をご存知ですか。

- ① はい
- ② いいえ

問 12. 「認知症疾患医療センター」に紹介したことがありますか。

- ① はい
- ② いいえ

問 13. 「認知症疾患医療センター」をより充実させ、かかりつけ医のバックアップ機能の役割を果たすにはどのようなことが必要と思われますか。

- ( )





[ ]

問 21. 認知症の人と家族が安心して暮せる地域となるためのイメージとして、下記の I ~ V の様なものが望ましいと思われます。そのために重要と思われるもの3つを下の①~⑦の中から選んでください。

- I 困った時にすぐに相談できる窓口を誰でも知っていて、家族が隠さずに支援を求めることができる
- II かかりつけ医が認知症に対応できるようになる
- III 関わる人みんなで話し合い、ケアを高めることができる
- IV 地域住民もスタッフも認知症は病気と理解でき、やさしい対応ができる
- V 認知症の人が身近な所に安心して出かけられる場所がある

- ①介護保険制度の啓発
- ②包括支援センターのPR強化、かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者の公表
- ③家族が認知症という病気に気づくための知識の普及・啓発
- ④認知症の人に対しての偏見をなくすための「病気の理解のための」啓発活動
- ⑤関わる人みんなで話し合い、学習する場の設置
- ⑥認知症対策の取組みは特別なことでなく、地域づくりと一体となって行う
- ⑦認知症予防プログラムのあるデイサービスの充実

問 22. 認知症対策に関する行政へのご意見がございましたらご自由にご記入ください。

[ ]

問 23. 最後に先生ご自身が「もしかして自分は認知症かもしれない」と思われたらどうされますか。該当するものをお選びください。(3 つまで選択可)

- ① アリセプトやメモリーを服用する
- ② 信頼できる医師を受診する
- ③ 家族に相談する
- ④ 家に引きこもる
- ⑤ 仕事を辞める
- ⑥ 何もしない(自然に任せる)
- ⑦ 認知症について学習する

その他、ご意見など以下にご自由にお書きくだされば幸いです。

[ ]

お忙しいところご協力ありがとうございました。アンケート結果については、集計後送付します。

平成 22 年度認知症ケアに係る地域医療連携事業

「米子市における認知症の早期発見と連携についての調査」報告書

発 行 日 平成 23 年 3 月

編集・発行 米子市役所 長寿社会課

〒683-8686 鳥取県米子市加茂町一丁目 1 番地

電話 0859-23-5132

F A X 0859-23-5012